

令和8年度 南幌町の教育



南幌町教育委員会



南 幌 町 民 憲 章

(昭和49年9月制定)

わたくしたちは、太陽と緑に恵まれて、限りなく伸びゆく田園都市南幌の町民です。先人のたくましい開拓精神を受けつぎ、おたがいのしあわせを願い、住みよいまちの建設をめざして、この憲章を定めます。

- 一 健康で働き、楽しい家庭をつくりましょう。
- 一 親切をつくし、あたたかいまちをつくりましょう。
- 一 きまりをまもり、明るいまちをつくりましょう。
- 一 自然を愛し、美しいまちをつくりましょう。
- 一 文化を高め、豊かなまちをつくりましょう。
- 一 未来への夢を育て、希望のまちをつくりましょう。

町 章



町木／オンコ



町花／ツツジ



昭和37年5月1日の町制施行により、「幌向村」から「南^{みなみほろ}幌町」と呼び名が改められ、昭和39年に町章が制定されました。「みなみほろ」の5文字をカタカナで円を形どり、町の安定と町民の融和を表し、更に、夕張川・千歳川・旧夕張川に囲まれた地形を象徴して作られました。その後、昭和43年4月1日より「南^{なんほろ}幌町」と改称し、現在に至っています。

目 次

南幌町民憲章・町章・町木・町花

《目 次》

1. 南幌町教育目標	1
2. 生涯各期の実践指標	3
3. 教育委員会	
(1) 教育委員会委員	4
(2) 歴代教育委員・歴代教育長	5
(3) 教育委員会事務局機構図、事務局事務分掌	7
4. 令和8年度教育行政執行方針	10
5. 人口の推移、教育費の推移	18
6. 教育行政の変遷	19
7. 学校教育	
(1) 学校教育の概要	24
(2) 町立学校一覧	26
(3) 児童生徒数・学級数	27
(4) 小中学校児童・生徒数の推移状況	28
(5) 教職員名簿	29
(6) 学校給食	31
(7) 保育園・私立幼稚園・養護学校一覧	33
(8) 学校教育関係委員・団体名簿	35
(9) 学校教育関係団体	38
8. 社会教育	
(1) 第4期南幌町社会教育中期推進計画	39
(2) 石川神楽	42
(3) 南幌町史跡・標柱位置図	43
(4) 社会教育関係施設	44
(5) 社会体育施設	46
(6) 社会教育関係委員名簿	48
(7) 社会教育関係団体	51
(8) 社会体育関係団体	54
(9) 芸術・文化関係団体	56
(10) 社会教育関係施設利用サークル	58

1. 南幌町教育目標

～南幌町教育のめざす姿～

自然の恵みと開拓精神を糧に、生涯自ら学び続け、
郷土愛に燃えて文化を創造し、新世紀を心豊かに
生きる人の育成に努める。

めざす人の姿

1. 家族のきずなを深め、助け合いを大切にする人
2. 自然や地域に親しみ、心身ともにたくましい人
3. 周りに感謝し、思いやりの心で行動する人
4. 個性を発揮し、生きる力に満ちた人
5. ふるさと意識を高め、社会に奉仕する人
6. 広く学び、豊かな文化をつくる人

実現の場

(実現の場の見方)

- ・実現の場は、「めざす人の像」を町民に実現してもらえよう家庭、学校、地域における具体的な方策や心構えなどを盛りこんだ「実現の手だて」を示しています。
- ・「実現の手だて」の内容について、家庭欄は家族全員にこうあってほしいと願うことと子ども達の指導にかかわる内容、学校欄は全てが子ども達にかかわる内容であり、加えて学校が子ども達を指導する際の方策などを示す内容、地域欄は主に地域の成人にかかわる内容となっています。
- ・「合いことば」は、「めざす人の像」を力強く実現するために、家庭、学校、地域の「実現の手だて」の中心的内容を一文にまとめた町民共通のことばです。

	実現の場	家 庭	学 校	地 域
	合いことば	家族のきずなを深めよう	生きる力を育てよう	地域そろって輪になろう
めざす人の像		実現の手だて	実現の手だて	実現の手だて
1. 家族のきずなを深め、助け合いを大切に人		<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いや団らんを大切に、心が通い合う家庭をつくりま ・一人一人がかけがえのない存在として支え合い、家族の役割を果たします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭とのつながりを深めながら、望ましい家族のあり方を知らせ ・集団活動や教科の学習を通して、自己の役割や協力することの大切さを学びます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近所との交流に心がけ、よりよい家族のあり方を学びま ・地域の子供達や家族に声をかけ、つながりを深めます。
2. 自然や地域に親しみ、心身ともにたくましい人		<ul style="list-style-type: none"> ・自然を守り、地域社会に進んでかかわりながら、潤いのある毎日に ・人と人とのつながりを大切に、身近な遊びやスポーツに親しみ、心と体をきたえます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・開拓の歴史や自然の恵みなどの地域の特色を学び、郷土の理解を深め ・健康やスポーツに対する関心を高め、心と体の健全な成長を促 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちの自然環境や公園などの活用に努め ・スポーツや文化に親しみ、心と体の健康増進に励み
3. 周りに感謝し、思いやりの心で行動する人		<ul style="list-style-type: none"> ・家族や周りの人々に「ありがとう」が言えるように ・物事の良し悪しを判断し、生命を尊ぶ心 	<ul style="list-style-type: none"> ・今ある自分は周りの人々の支えによることを理解し、感謝の気持ち ・日常の言動に気を配り、他人を思いやる態度を 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々との交流を大切に、助け合いと感謝の心 ・町内会活動に進んで参加し、心が通い合うように
4. 個性を発揮し、生きる力に満ちた人		<ul style="list-style-type: none"> ・持ち味を大切に、素直にはっきり自分を表現できるように ・粘り強く物事に取り組み、自分の力でできるように 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人のよさを伸ばし、認めあう場を積極的に ・学習指導を工夫し、自ら課題を見つけ、考え、解決していく力を 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな活動に積極的にかかわり、自分のよさを伸ば ・一人一人の生き方に共感し、明るく、力強く生きるように
5. ふるさと意識を高め、社会に奉仕する人		<ul style="list-style-type: none"> ・子ども会やまちの行事などに家族で進んで参加し、ふるさとを愛する心 ・奉仕する心を育み、美しいまちづくりに協 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の文化や生活に親しみ、郷土に愛着をもつ心を ・住みよい町にするために、一人一人ができることを考え 	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで地域にとけ込み、よきふるさとをつくり ・一人一人が子ども達の育成者としての自覚に立ち、地域づくりに
6. 広く学び、豊かな文化をつくる人		<ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心を大切に、自ら学ぶ姿勢を ・施設や情報を進んで活用し、物事に対する見方を 	<ul style="list-style-type: none"> ・広い視野と多様な考え方を大切にし、学び続ける態度を ・様々な学習活動を通して、豊かな心で物事を見たり、考えたりできるように 	<ul style="list-style-type: none"> ・心豊かな人生を送れるよう、広く学びとる姿勢を ・各種講座やサークル活動などに進んでかかわり、仲間とともに、夢や願いを

2. 生涯各期の実践指標

＝ 乳幼児期（0歳～5歳） ＝

1. 自然との触れ合いを求め、生活環境を生かし、健康な心身の基礎を育てる。
2. 友達と仲よくする心を育てる。
3. 自分でできる基本的な生活習慣を育てる。
4. 自然や生活経験から思考力の芽生えを育てる。

＝ 少年期（6歳～14歳） ＝

1. 自然との触れ合いを大切にし、健康でたくましい心身を育む。
2. 他人を思いやり、協調性と豊かな感受性を育む。
3. 家庭・学校のきまりを守り、よりよく生きる生活の技能を育む。
4. 自然や郷土を理解し、個性を伸ばし、創造性を育む。

＝ 青年期（15歳～29歳） ＝

1. 自然との触れ合いを生かし、健康でたくましい心身を培う。
2. 協同して、働く喜びや物をつくる楽しさなど、社会奉仕の精神を培う。
3. 学校・社会の秩序を守りよりよい生きかたを探究し、何ごとにもくじけない力を培う。
4. 文化や伝統を理解し、新しい郷土づくりに貢献する力を培う。

＝ 壮年期（30歳～59歳） ＝

1. 自然や郷土を愛し、健康増進に努める。
2. 近隣の触れ合いの中で、励まし助け合うように努める。
3. 家庭を守り、勤労を尊び、社会に貢献する意志の高揚に努める。
4. 一人ひとりの学習を高め、豊かな文化の創造に努める。

＝ 高齢期（60歳以上） ＝

1. 自然と趣味に親しみ、健康を維持し、生きがいのある人生を求める。
2. 若い世代との触れ合いを大切にし、明るい家庭を求める。
3. 身につけた知識と経験を活かし、社会参加を求める。
4. 広い視野で郷土の自然や文化を守り、後世に伝承を求める。

3. 教育委員会

(1) 【教育委員】



教育長
西田 篤人

令和5年4月1日就任



委員
久保 康則
(教育長職務代理者)

平成28年10月1日就任



委員
武田 優理子

令和2年10月1日就任



委員
古道 郁恵

令和2年10月1日就任



委員
伊藤 憲二

令和4年11月17日就任

(2) 【 歴代教育委員 】

氏 名	在 任 期 間	摘 要
久 保 富太郎	S27. 11. 1 ~ S29. 1. 13	委員長 (S27. 11. 1 ~ S29. 1. 13)
松 田 五十三	S27. 11. 1 ~ S31. 9. 30	
山 下 治 市	S27. 11. 1 ~ S34. 3. 25	委員長 (S30. 2. 1 ~ S31. 9. 30) 委員長 (S32. 10. 1 ~ S33. 9. 30)
神 埜 義 学	S27. 11. 1 ~ S35. 9. 30	委員長 (S29. 1. 16 ~ S30. 1. 13)
加 藤 清 夫	S27. 11. 1 ~ S29. 1	
小 林 正 義	S29. 1. ~ S34. 3. 25	
	S46. 5. 6 ~ S52. 3. 9	委員長 (S49. 5. 16 ~ S52. 3. 9)
土 山 政 雄	S29. 1. ~ S31. 9. 30	
海老沢 譲	S31. 10. 1 ~ S32. 9. 30	委員長 (S31. 10. 1 ~ S32. 9. 30)
垂 水 嘉寿恵	S31. 10. 1 ~ S39. 3. 13	委員長 (S33. 10. 1 ~ S39. 3. 13)
宮 崎 与 吉	S31. 10. 1 ~ S35. 9. 30	
橋 爪 本 一	S34. 6. 1 ~ S46. 2. 16	委員長 (S39. 3. 14 ~ S46. 2. 16)
山 口 良 明	S35. 10. 1 ~ S49. 4. 18	委員長 (S46. 3. 1 ~ S49. 4. 18)
馬 場 藤 助	S35. 10. 1 ~ S46. 2. 16	
山 内 弘	S39. 3. 14 ~ S46. 9. 30	
細 田 保	S46. 5. 7 ~ S52. 3. 10	
長 沢 菊太郎	S46. 10. 1 ~ S49. 9. 30	
安 藤 一 雄	S49. 5. 16 ~ S52. 3. 10	
瀬 川 須美夫	S49. 10. 1 ~ S52. 3. 9	
海老沢 役	S52. 3. 10 ~ S62. 6. 30	
平 和 丸	S52. 3. 10 ~ S61. 3. 31	委員長 (S52. 3. 10 ~ S61. 3. 31)
石 川 孝 一	S52. 3. 11 ~ S59. 9. 30	
河 村 正 義	S52. 3. 11 ~ H12. 3. 31	委員長 (S61. 4. 1 ~ H11. 3. 31)
五十嵐 義 克	S59. 10. 1 ~ H10. 3. 31	
神 埜 惇	S61. 4. 1 ~ H10. 12. 15	
白 倉 健 一	S62. 7. 1 ~ H 2. 7. 6	
竹居田 新 次	H 2. 7. 20 ~ H 6. 12. 20	
平 賀 國 廣	H 6. 12. 21 ~ H13. 12. 31	委員長 (H11. 4. 1 ~ H13. 12. 31)

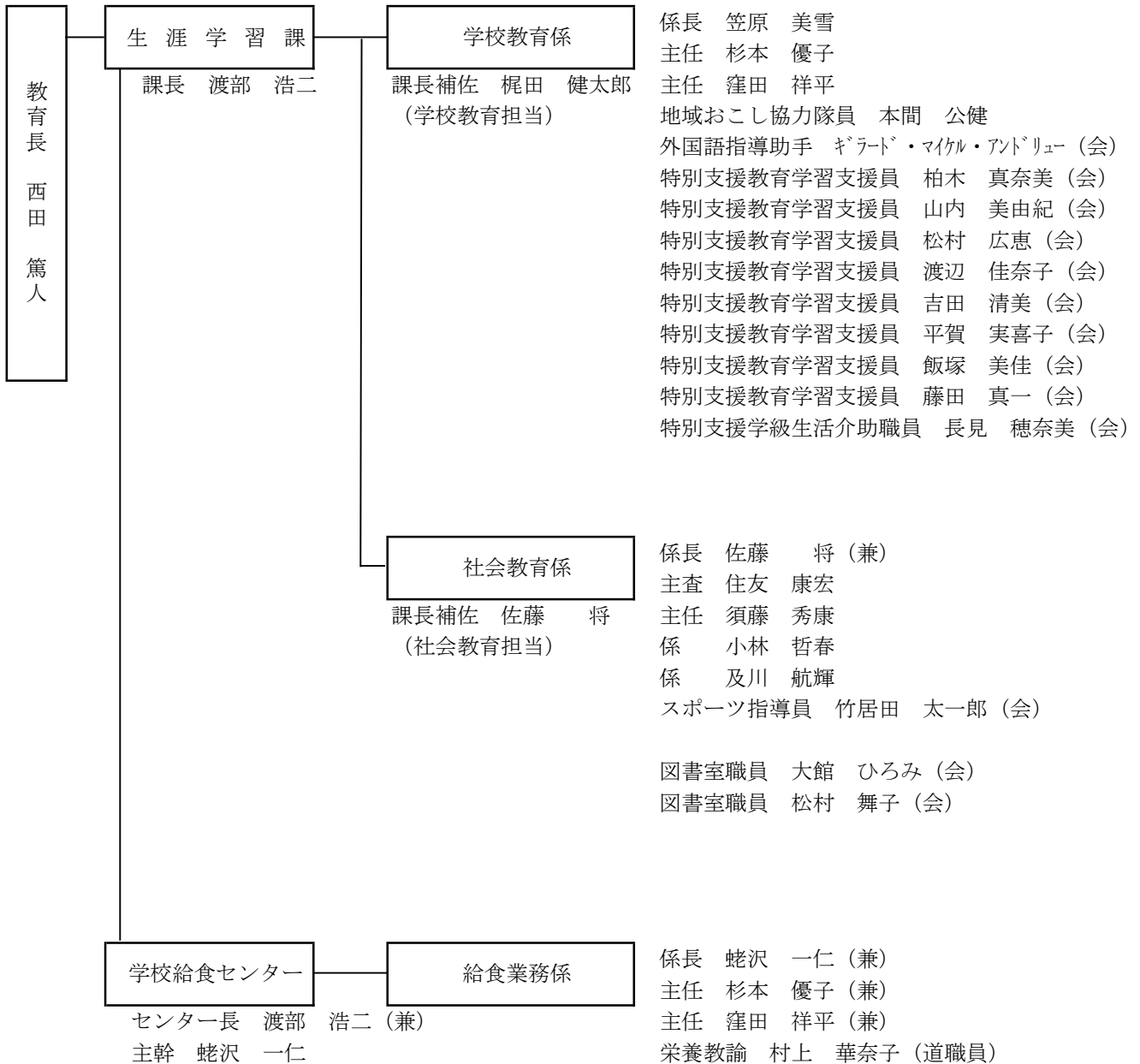
氏 名	在 任 期 間	摘 要
津 坂 彰	H10. 4. 1 ~ H12. 9. 30	
内 田 一 之	H11. 3. 15 ~ H13. 12. 31	
小 松 良 樹	H12. 4. 1 ~ H21. 6. 30	
杉 本 隆 憲	H12. 10. 1 ~ H21. 6. 30	
蔵 喜久夫	H14. 1. 1 ~ H24. 12. 31	委員長 (H14. 1. 1 ~ H24. 12. 31)
仁 平 良 次	H14. 1. 1 ~ H28. 9. 30	委員長 (H25. 1. 1 ~ H28. 9. 30)
中 鉢 須美子	H21. 7. 1 ~ R 2. 9. 30	委員長 (H28. 10. 1 ~ H29. 9. 30)
向 井 亜 紀	H21. 7. 1 ~ R 2. 9. 30	
磯 野 薫	H25. 1. 1 ~ R 4. 11. 16	職務代理者 (H29. 10. 1 ~ R4. 11. 16)
久 保 康 則	H28. 10. 1 ~	職務代理者 (R 4. 11. 17 ~)
武 田 優理子	R2. 10. 1 ~	
古 道 郁 恵	R2. 10. 1 ~	
伊 藤 憲 二	R4. 11. 17 ~	

【 歴代教育長 】

氏 名	在任期間
角 道 清 志	S27. 11. 1 ~ S28. 3. 31
末 岡 八 郎	S28. 4. 1 ~ S31. 9. 15
松 田 長 一	S31. 10. 1 ~ S32. 3. 31
山 下 治 市	S32. 5. 2 ~ S33. 10. 30
神 埜 義 学	S33. 11. 1 ~ S34. 6. 30
市 田 次 男	S34. 7. 2 ~ S52. 3. 24
加 藤 真 次	S52. 3. 25 ~ S62. 6. 30
青 木 寛	S62. 7. 1 ~ H12. 3. 31
佐 藤 邦 昭	H12. 4. 1 ~ H15. 5. 20
林 琢 己	H15. 5. 21 ~ H24. 3. 31
高 山 和 己	H24. 4. 1 ~ H29. 9. 30
小笠原 正 和	H29. 10. 1 ~ R2. 9. 30
	R2. 11. 1 ~ R5. 3. 31
西 田 篤 人	R5. 4. 1 ~

(3) 【教育委員会事務局機構図】

令和8年5月1日 現在



【事務局事務分掌】

生涯学習課	<p>学校教育係</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 学校教育に関すること。(2) 教育委員会の会議に関すること。(3) 規則、規定等の制定、改廃に関すること。(4) 儀式、褒章及び表彰に関すること。(5) 教育委員会職員及び学校職員の任免その他人事に関すること。(6) 学校の設置及び廃止に関すること。(7) 教育財産の管理に関すること。
	<p>社会教育係</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 社会教育に関すること。(2) 芸術、文化及び文化財に関すること。(3) スポーツに関すること。(4) 社会教育審議会に関すること。(5) 社会教育関係団体の指導、育成に関すること。

給食センター	<p data-bbox="395 439 608 479">給食業務係</p> <ul data-bbox="395 595 1315 1084" style="list-style-type: none"><li data-bbox="395 595 911 636">(1) 給食の献立作成に関する事。<li data-bbox="395 674 911 714">(2) 給食物資の購入に関する事。<li data-bbox="395 752 975 792">(3) 給食の調理及び運搬に関する事。<li data-bbox="395 831 943 871">(4) 給食費の徴収事務に関する事。<li data-bbox="395 909 1315 1016">(5) 給食に係る予算の取りまとめ及び令達された予算の執行に関する事。<li data-bbox="395 1055 911 1095">(6) その他給食業務に関する事。
--------	---

4. 令和8年度教育行政執行方針

I はじめに

令和8年第1回議会定例会にあたり、南幌町教育行政の執行に関する基本方針について申し上げます。

少子高齢化や人口減少、内なる国際化の進展、急速なデジタル化が複雑に絡み合い、深刻さを増す社会の変化は既存の価値観を大きく揺るがせ、先行きを見通すことが困難な時代をもたらしています。止まることのない急激な社会変化の中、多様な人々が立場を超えて他者と共存しながら自分らしく生きていくために、協調性やコミュニケーション能力、自己有用感、問題解決能力といった非認知能力を育み、生涯にわたって人間性を高めていくことが重要となっています。

教育委員会としましては、現時点で予測される社会の課題や変化に対応した人材を育成するという視点と予測できない未来に向けて自らが社会を創り出していく人材を育成するという二つの視点を持ちながら、学校教育と社会教育はもとより、家庭、地域、学校、行政がつながる持続可能な「地域に根ざした教育と文化のかおり高いまちづくり」を目指してまいります。さらに「南幌町教育大綱」に示された基本方針に基づき、町民一人ひとりがそれぞれの幸せや生きがいを感じるとともに、地域社会においても満足感や豊かさを享受できるよう「認め合い、支え合い、学び合い」ながら、子どもも大人もともに育ち合う人づくりと教育環境の充実に向けて効果的な取組を進めてまいります。

II 主要施策

次に、令和8年度における主な施策について申し上げます。

1 学校教育の推進

地域とともにある学校づくりの実現のために、家庭、地域、学校、行政が連携・協力しながら課題を共有し、自らの人生を舵取りできる民主的で持続可能な社会の担い手をみんなで育む「社会に開かれた教育課程」を構築してまいります。

(1)小中一貫教育の推進

昨年度より本格実施を始めた小中一貫教育については、義務教育9年間を見通した系統的かつ継続的な指導体制のもと、学びの連続性や児童生徒の社会性・自己有用感を育むため、引き続き目指す児童生徒像「学ぶ楽しさを知り 仲間と高め合い 夢を膨らませる 南幌の子」の実現に向けて取り組んでまいります。

そのために、専門的な知見を持つ外部講師と連携した実践的な研修を推進し、教師の指導力を高め、児童生徒の発達段階に応じた学びがさらに確かなものとなるよう、生徒指導の3つの機能を根底に据えた探究的な学びを実現する授業改善に取り組んでまいります。

また、児童生徒理解に関する教師の力量を高めるため、子ども理解支援ツール「ほっと」を活用したコミュニケーションスキルの客観的分析と課題の共有化を北海道医療大学心理学部と連携し、組織的にいじめや不登校防止の対応に取り組んでまいります。

小・中学校における少人数学級につきましては、小中一貫教育の理念のもと、1学年2学級を維持するため、中学2年生に町独自による教員を加配し、9年間を通して同じ環境の下、同じ視点できめ細かな指導を行ってまいります。

児童生徒に望ましい勤労観や職業観を育むために、外部講師の活用や町内各商店・事業所・企業、地域の皆様の協力を得ながら、小・中学校の連続性を踏まえた総合的な学習の時間や職業体験活動などを充実し、社会とのつながりの中でコミュニケーション能力を育成するキャリア教育を推進してまいります。

教育上、配慮を必要とする児童生徒一人ひとりの学習面や生活面を支えるため異校種間の連携を密にするとともに、小・中学校に特別支援教育学習支援員、小学校に生活介助職員を配置し、発達や個に応じたよりきめ細かな特別支援教育の充実に取り組んでまいります。

(2)確かな学力を育む教育活動の充実

児童生徒一人ひとりの学習状況や特性に応じた「個別最適な学び」と、多様な考えに触れながら深い理解を促す「協働的な学び」を一体的に推進するためには、新しい時代に必要となる資質・能力の育成に向けた教育の充実が重要です。そのために「全国学力・学習状況調査」や「ほっかいどうチャレンジテスト」「標準学力検査」の結果から明らかになった成果や課題を踏まえ、小・中学校における基礎学力向上プランの見直しを行い、課題のある領域を分析し、校種を超えた教員の理解のもと、授業改善による学習指導の充実に取り組んでまいります。

学習習慣の定着につきましては、各学校が作成する「家庭学習の手引き」を継続的に活用し、学習方法や家庭学習の定着を図るとともに、小・中学校にAIドリル搭載アプリを導入し、児童生徒一人ひとりの理解度や学力に応じた学びの個性化と指導の個別化により、学習意欲の向上と家庭学習の定着への取組を充実してまいります。

多様な子どもたちの「深い学び」を確かなものにするために、ICT支援員の配置による学びの充実とともに情報活用能力の育成を図り、1人1台端末を文房具の一つとし

て学校や自宅で日常的に活用し、デジタルの力でリアルな学びを支えてまいります。

また、長期休業中においては、ICT支援員を中心に「なんぼろスチームラボ」を開催し、デジタル人材の育成とプログラミング教育を推進するほか、社会教育事業と連携した「あそびの達人特別教室」を実施し、補充的な学習機会の確保に取り組んでまいります。

さらに、本町の児童生徒の実態を踏まえ「なんぼろ学力向上メッセージ」による学力向上に向けた保護者への啓発を行ってまいります。

国際社会で活躍する人材の育成につきましては、グローバル化社会に適應できる人材育成に向けて、外国語指導助手や地域人材、大学生を活用するなど互いの考えや思いを外国語で伝え合う対話的な活動を推進し、積極的なコミュニケーション能力の育成に取り組んでまいります。併せて、英語技能検定料については、新設される6級及び7級の基礎レベル試験への挑戦に対しても助成し、英語力や学習意欲の向上を図ってまいります。

また、海外での生活体験を通して、生きた英語力を身に付け自分の考えを英語で表現する力など、国際感覚を養うことを目的に「中学生国際留学プログラム事業」を実施してまいります。

(3) 豊かな人間性と健康な体の育成

子どもたちの健やかな成長のためには、基本的な倫理観や規範意識を身に付け、自律心や自他の生命を尊重するなど、豊かな心と健康でたくましい体を育てることが大切です。

道徳教育の充実につきましては、いのちを大切にできる心と思いやりのある心を育むための取組や、児童生徒が自らの考えを表現し、多様な価値観に触れながら学びを深める活動を通して、いじめを生まない土壌づくりに取り組むなど、小中一貫して豊かな人間性を育むよう進めてまいります。

いじめの予防や不登校の対応につきましては、悩みや不安を抱える児童生徒の早期発見・早期対応につなげるために、定期的ないじめアンケートや「ほっと」等の学校風土調査とともに、教育相談、ネットパトロールなどの実施による実態把握に努め、全ての教員が情報を共有し組織として早期解決に取り組むとともに、スクールカウンセラーと連携した心のケアなどに迅速、適切に対応してまいります。

併せて、いじめ問題を考える取組を通じて「いじめは絶対に許されない」という意識を養うため、児童生徒が主体的にいじめ問題を考え、行動につながる取組を推進してまいります。

健康な体の育成につきましては「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」における本町の児童生徒の実態を踏まえ、小・中連携した教育活動を通して、体力向上に向けた運動習慣や適切な生活習慣への意識付けを醸成し、仲間と楽しく運動する機会の確保と体力向上プランを活用した啓発活動など、子ども一人ひとりの実態に応じた取組を推進してまいります。

学校給食につきましては、安全・安心で栄養バランスのとれた給食の提供に加え、地元農産物の活用を通じて地域の主要な農産物に対する理解を深めるとともに、健康の増

進や体力の向上、食に関する正しい知識や判断力を養うなど食育の推進に取り組んでまいります。

社会情勢の変化に伴い食材費の高騰が長期化する中、現在の食材や献立内容を維持し、子育て世帯の経済的負担軽減を目的に、小・中学校の給食費無償化を実施し、子どもたちの健やかな成長を支えてまいります。

また、学校給食の安全かつ安定的な提供を図るため、学校給食センター調理場の蒸気ボイラーの改修と空調設備の設置を行ってまいります。

(4)開かれた学校づくりと教育活動の充実

未来を担う子どもたちの豊かな成長のためには、学校が抱えている様々な課題を共有し、家庭や地域と連携・協働しながら社会とつながる機会を創出していくことが重要です。

地域とともにある学校づくりにつきましては、「みんなで育てよう南幌の子どもたち」をスローガンに、学校運営協議会が主体となってコミュニティスクールの円滑な運営に取り組んでいます。今後も、地域と連携した望ましい支援のあり方などを発信し、保護者や地域の皆様が学校運営に主体的に参画する協働体制を推進してまいります。

中学校部活動の地域展開につきましては、本町の現状を踏まえ、今後の子どもたちの活動の在り方について、その連続性も考慮しながら最適と考えられる体制を構築していくことが必要です。スポーツ少年団本部を地域展開の受け皿として、中学校と連携を密に図り、子どもたちの活動環境を将来にわたって維持できるよう、引き続き検討を進めてまいります。

(5)教育環境の充実

学校教育を維持・向上させるためには、児童生徒が安心して通学し、継続して学べる教育環境の充実が必要不可欠です。

学校における働き方改革につきましては「第3期学校における働き方改革南幌町アクション・プラン」に基づき、校務支援システムを活用した勤務時間の可視化により教職員の意識向上を図り、教職員一人ひとりのワーク・ライフ・バランスを意識しながら学力向上に資する授業改善や児童生徒と向き合う時間を確保できる環境づくりに取り組んでまいります。

「高等学校等通学費補助事業」につきましては、通学する学校毎の定額補助を行うことで保護者の負担軽減を図ってまいります。

学校教育施設の適正な維持管理につきましては、教育施設長寿命化計画に基づき、南幌小学校の大規模改修事業により、体育館の暖房設備改修を実施してまいります。

(6) 姉妹町児童交流の推進

熊本県多良木町との児童交流学習事業につきましては、多くの出会いやふれあいを通じて、お互いの歴史や文化、産業への理解を深めるとともに、友好を深める貴重な機会となりました。今後も両町の心と心の絆を一層深めるため、より充実した交流事業を推進してまいります。

2 社会教育の推進

次に、社会教育の推進について申し上げます。

人生100年時代といわれる今日、生涯にわたって学び続け、多様な他者と協働しながら心豊かに生きがいのある生活を送るために、社会教育の担う役割は益々重要となっています。学びを通じて個人の資質を高める「人づくり」を、地域の課題解決や住民同士の「つながりづくり」へと循環させる学習機会の提供が求められています。

「第4期社会教育中期推進計画」に基づき、地域人材を発掘・活用し、関係機関と連携を図りながら、各分野での施策を展開してまいります。

また、令和9年度からの「第5期社会教育中期推進計画」の施行に向けて、時代に即した新たな社会教育の方向性を示すための計画策定を行います。

(1) 生涯学習の推進

人と人がつながり、心にゆとりと潤いのある暮らしを送るためには、社会の変化に伴う地域課題や生活課題を把握し、時代の変化に対応した新たな知識や技術を習得することが重要です。趣味や習い事の枠を超え、充実した人生を送るための学習活動と地域課題の解決とを結びつけることが不可欠です。

生涯学習センター「ぼろろ」を拠点に、誰もが身近で気軽に参加できる生涯学習講座やさわやかカレッジ等の学習機会を提供し、心身ともに健康で文化的な生活を送ることができ、立場や世代を超えて学び合い、地域社会の課題解決につながるような学習環境を充実してまいります。

また、その学習成果を活用する機会を創出し、学習者が生涯学習サポーターとして学習支援に携わる等、学習意欲が継続し、やりがいを感じることができる仕組みづくりを進めてまいります。

「生涯学習推進基本構想」に基づき、南幌らしい生涯学習社会の実現に向けて、町部局との連携を図り、それぞれの専門性を活かした学習機会や人とのつながりをつくる機会を構築してまいります。

(2) 青少年健全育成の推進

子どもたちは、町の将来を担う宝であり、未来をつくる希望です。子どもたちが、自分の可能性を信じて前向きに挑戦し、未来を切り拓いていけるよう、社会性や創造性を育む機会の確保が必要です。

そのため、子どもたちが参加している多様なスポーツや文化活動などを広く支援するとともに、自分の将来を見つめ、目標に向かって前向きに挑戦していくことができるよう、子どもの未来を応援する取組を実施してまいります。

子どもたちの夢を応援し夢を抱くきっかけづくりとして、著名人を講師に招き自身の体験談などを用いながら、前向きに夢を目指す子どもたちを育成するため、「プロフェッショナル講演会」を開催してまいります。

デジタル機器の普及により子どもたちの生活習慣が大きく変化する中、異年齢との交流や自然体験、生活体験などの不足や体験格差が指摘されていることから、子ども会育成連絡協議会などと連携するとともに、生涯学習サポーターや高校生・大学生を活用しながら、多種多様な体験活動ができる機会の確保に努め、子どもたちの自主性・自発性の育成やリーダー養成につながる社会教育事業の充実に取り組んでまいります。

また、地域学校協働本部を中心に、学校を核とした地域社会とのつながりや地域全体で子どもたちの学びや成長を支える体制づくりを進めてまいります。

(3) 家庭教育の支援

家庭教育はすべての教育の原点であり、子どもが健やかに成長し、社会性を身につけるための重要な役割を担っています。

家庭環境の多様化や多忙化から、子育てに関する不安や悩みを共有する機会が少なくなっており、家庭を孤立させず、家庭の教育力を地域全体で支える視点と仕組みづくりが重要です。

そのため、就学前児童や小・中学生の保護者に対して、現代特有の課題に家庭が適切に対応できるようサポートするため、家庭教育講座や親子体験活動などの学習機会を提供し、家庭教育の向上を図ってまいります。

(4) スポーツ・レクリエーション活動の推進

すべての世代の町民がいつでも、どこでも、いつまでも、日常的にスポーツやレクリエーション活動に取り組むことは、健康な心身をつくるだけではなく、活力あるまちづくりにも繋がります。

そのため、スポーツ推進委員や関係団体と連携し、年齢・体力・技術に応じたスポーツ教室や体力づくり教室などを開催するとともに、各種スポーツ大会を通じた地域間交流や世代間交流の活性化を図り、生涯スポーツの推進に取り組んでまいります。

また、子どもたちの体力向上を目指し、各種スポーツ教室を開催し、運動能力の基礎

が形成される幼少年期から、仲間とともに体を動かす楽しさを伝え、スポーツに親しむ環境づくりに取り組んでまいります。

(5) 芸術・文化活動の推進、ふるさとの記憶の保全

芸術や文化は、人々に感動や生きる喜びをもたらす人生を豊かにするものであり、その果たす役割は重要です。

町民一人ひとりが創造性を高め、心にゆとりと潤いのある生活を送るために、自主的で主体的な芸術・文化活動への展開を想定した学習機会の提供に努め、芸術・文化活動による生きがい、仲間づくりの場を充実してまいります。

また、学校や文化協会と連携し、優れた芸術・文化に触れる機会を提供するとともに、町民の文化活動の発表の機会を創出してまいります。

郷土芸能を伝承する団体の活動衰退が大きな課題となっています。引き続き、団体の活動を支援するとともに、まちの有形・無形の歴史と文化に触れる機会を提供し、後世に伝えるための資料保存と継承を行ってまいります。

(6) 読書活動の推進

読書に親しむことは、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、豊かな情操を育む上で極めて重要です。子どもから高齢者まで、あらゆる世代が生涯にわたって読書を楽しむことができるよう、読書環境を充実させることが大切です。

生涯学習センター図書室における蔵書の充実や特集展示の実施、読書イベントの開催により町民の読書活動を支援し、いつでも気軽に読書や学習活動ができる図書室づくりに取り組んでまいります。

また、子どもの読書活動につきましては、学校図書室と生涯学習センター図書室が連携し、蔵書を有効活用することで読書環境の充実を図るとともに、読み聞かせサークルを主体に、家庭、地域、学校が連携した読書活動の推進体制の整備を行ってまいります。

(7) 社会教育関係施設の充実

生涯学習センター「ぼろろ」をはじめとする社会教育関係施設は、町内外の多くの方にご利用いただいています。

これらの施設が、町民誰もが気軽に安心して利用でき、親しまれる公共施設となるよう、適正な維持管理と整備により利用環境の向上に取り組んでまいります。

さらに、町民が創作活動の発表の場として生涯学習センターロビーなどを活用することで、サークル活動の活性化を図ってまいります。

スポーツセンター、農村環境改善センターにつきましては、町民の心身の健全な発達

とスポーツ・文化の普及振興が一層図られるよう、指定管理者と綿密に連携し、施設の利便性向上に向けて取り組んでまいります。

また、誰もが安心して利用できる環境を整えるため農村環境改善センター多目的ホールに空調設備を整備してまいります。

Ⅲ むすび

以上、令和8年度の教育行政執行にあたっての基本方針と主な施策について申し上げます。

町民一人ひとりが多様な他者を理解・尊重し、包摂的な地域社会を築いていくために、「人づくり・つながりづくり・地域づくり」の循環を生み出し、協調的な幸福感を紡ぐことができるよう、家庭、地域、学校、行政が一体となって教育振興の充実・発展に向けて取り組んでまいります。

町民の皆様並びに町議会議員の皆様のご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

5. 人口の推移

(4月1日現在)

年 度	人 口	戸 世帯数	年 度	人 口	戸 世帯数
平成19年	9,311	3,357	平成29年	7,737	3,421
平成20年	9,143	3,338	平成30年	7,629	3,446
平成21年	9,143	3,338	平成31年	7,536	3,457
平成22年	8,895	3,377	令和2年	7,464	3,457
平成23年	8,718	3,384	令和3年	7,416	3,486
平成24年	8,571	3,395	令和4年	7,366	3,477
平成25年	8,411	3,435	令和5年	7,610	3,595
平成26年	8,218	3,443	令和6年	7,838	3,719
平成27年	8,051	3,449	令和7年	8,036	3,810
平成28年	7,891	3,451	令和8年	8,251	3,906

教育費の推移（決算額）

(単位；千円、%)

区分 \ 年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	
一 般 会 計	7,093,522		8,119,395		7,725,875		8,150,099		8,174,701	
教 育 費	353,711	5.0	362,239	4.5	716,998	9.3	383,575	4.7	655,805	8.0
1 教育総務費	79,893	22.6	75,543	20.9	81,461	11.4	85,748	22.3	95,683	14.6
2 小学校費	42,450	12.0	46,682	12.9	41,562	5.8	62,745	16.4	287,319	43.8
3 中学校費	27,448	7.8	42,413	11.7	228,306	31.8	39,013	10.2	35,708	5.4
4 社会教育費	62,140	17.6	35,310	9.7	49,395	6.9	49,237	12.8	126,425	19.3
5 保健体育費	141,778	40.0	162,289	44.8	316,272	44.1	146,831	38.3	110,668	16.9

6. 教育行政の変遷

明治26年		開拓定住により寺子屋式教育を始める
明治27年		石川地区で私塾を開設
明治28年		三重地区で学舎を開設
明治31年	4月	育生尋常小学校設置認可に伴い、育生尋常小学校幌向太分教場開校（北1西5）
明治32年	2月	青葉尋常小学校開校（南16西6） 育生尋常小学校開校（南12西5） 鶴城尋常小学校開校（南17西12）
	3月	夕張太簡易教育所開校（南13西22） ※夕張太尋常小学校として認可 晩翠尋常小学校開校（南11西15）
明治34年	9月	郡界変更により育成尋常小学校幌向太文教場が江別村（現江別市）に編入
明治39年	4月	南幌尋常高等小学校開校（南14西8） ※校舎新築まで現誓松寺の前身大谷派説教所を借受
明治40年	2月	南幌尋常高等小学校校舎新築（南13西8）
明治41年	4月	夕張太簡易教育所が夕張太教育所に改称
	12月	幌向村青年会設立（青年団体協議会）
大正2年	9月	青葉尋常小学校新築移転（南15西4）
大正6年	4月	夕張太教育所が夕張太尋常小学校に校格変更
大正7年	7月	育生尋常小学校新築移転（南12西4）
昭和2年	11月	夕張太尋常小学校新築移転（南14西20）
昭和9年	12月	南幌尋常高等小学校新築移転（南14西9）
昭和10年	4月	南幌青年学校開校（南幌尋常高等小学校に併置）
	5月	青葉尋常小学校、育生尋常小学校統合後、東幌尋常小学校として開校（南14西5）
	6月	鶴城尋常小学校が南幌尋常高等小学校と統合し、鶴城尋常小学校校舎に南幌尋常高等小学校鶴城分教場を設置 晩翠尋常小学校校地変更、新校舎竣工（南12西15）
昭和13年	11月	夕張太尋常小学校新築移転（南16西20）
昭和16年	4月	東幌尋常小学校、晩翠尋常小学校、南幌尋常高等小学校、夕張太尋常小学校をそれぞれ国民学校に改称
	6月	南幌国民学校鶴城分教場を廃止し鶴城国民学校を開校
昭和18年	5月	南幌青年学校が南幌国民学校と統合
昭和22年	4月	東幌国民学校、晩翠国民学校、南幌国民学校、鶴城国民学校、夕張太国民学校をそれぞれ小学校に改称
	5月	南幌中学校開校 ※南幌小学校に併置 南幌中学校夕張太分教所設置 ※夕張太小学校に併置
	12月	南幌女子学院を開設 ※南幌小学校に併置

		南幌中学校夕張太分教所廃止
昭和23年	1月	夕張太中学校開校（南16西20）
	4月	南幌中学校新築移転（南13西9）
	12月	P T A連合会を組織 南幌女子学院を開設（南幌小学校に併置）
昭和24年	4月	南幌町公民館を発足
昭和27年	4月	南幌町相撲連盟設立
昭和28年	7月	幌向村教育研究所を設立（教育研究協議会）
	12月	野幌機農高等学校幌向分校として南幌中に併設 農業大学を野幌機農高等学校幌向分校に併設
昭和30年	2月	剣道連盟設立
昭和31年	4月	陸上競技クラブ設立 教育研究所を幌向村教育振興会に改組
昭和33年	3月	野幌機農高等学校幌向分校閉校
昭和33年	4月	北海道幌向高等学校（農業科）を南幌中に併設
昭和33年	12月	幌向高等学校独立し校舎新築移転（南13西9） 体育指導委員会設立
昭和34年	2月	南幌町体育協会設立
	4月	軟式野球連盟設立
昭和35年	4月	柔道連盟設立
昭和36年	3月	南幌町公民館廃止
昭和41年	11月	学校給食センター新築、給食開始
昭和43年	4月	南幌小学校を町名変更により校名を「みなみほろ」から「なんぼろ」 に呼称変更 スクールバス2台により運行開始 夕張太中学校が南幌中学校と統合し閉校 北海道青少年育成協会設立
	12月	スキー連盟設立
昭和44年	7月	町営プール竣工
	11月	南幌中学校新築移転（南14西9）
昭和45年	4月	スクールバス1台増設 鶴城小学校が南幌小学校と統合し閉校
昭和46年	4月	晩翠小学校が南幌小学校と統合し、晩翠小学校校舎に南幌小学校晩 翠分教場を設置
昭和47年	4月	東幌小学校が南幌小学校と統合し、東幌小学校校舎に南幌小学校東 幌分教場を設置
昭和47年	4月	スクールバス1台増設 南幌町文化協会設立
昭和48年	3月	南幌小学校晩翠分教場、東幌分教場を廃止
	4月	統合による新設南幌小学校開校
昭和49年	4月	町立南幌幼稚園開園
	6月	バレーボール協会設立

	10月	南幌町公民館竣工
昭和50年	1月	南幌高等学校全日制課程普通科設置認可
昭和53年	1月	道立北海道南幌高等学校認可
	4月	南幌町子ども会設立
		南幌町子ども会育成連絡協議会設立
	10月	南幌町営野球場竣工
	11月	夕張太小学校新築移転（南16西20）
昭和55年	4月	バドミントン協会設立
昭和56年	4月	緑野少年団設立
	7月	南幌町教育研究協議会設置
	10月	南幌町民テニスコート竣工
昭和57年	11月	南幌町農村環境改善センター竣工
		三重レークハウス竣工
昭和58年	4月	スポーツ少年団本部設立
昭和60年	2月	南幌中学校大規模改修
	4月	南幌養護学校開校
	10月	ゲートボール連合設立
昭和61年	3月	南幌国際射撃場竣工
	5月	南幌町高齢者大学（シルバーカレッジ）開講
昭和62年	4月	郷土文化館開館
昭和62年	4月	南幌町青少年問題相談員設置
	5月	金管バンド少年団設立
	7月	南幌町青少年非行防止推進委員委嘱
	8月	クレ射撃協会設立
昭和63年	10月	夕張太小学校プール竣工
平成元年	9月	第44回はまなす国体（クレ射撃）開催
	10月	南幌小学校大規模改修（第1次）
平成3年	3月	南幌小学校大規模改修（第2次）
	7月	第1回児童交流学習事業派遣（京北町）
	10月	晩翠運動公園ソフトボール場竣工
平成4年	4月	バウンドテニス協会設立
	9月	南幌町スポーツセンター新築
平成5年	2月	学校給食センター新築移転
平成6年	4月	私立南幌みどり野幼稚園開園
平成7年	3月	南幌小学校特殊学級設置
平成8年	4月	みどり野小学校開校（美園2、南幌小学校から特殊学級移行）
平成9年	10月	南幌中学校増築
平成10年	8月	夕張太小学校大規模改修
平成11年	10月	あいくる内に郷土文化伝承室、資料室併設
平成12年	5月	みどり野小学校ことばの教室設置
平成14年	4月	子ども週末等活動支援事業開始
		南幌町社会教育審議会設置

平成15年	1月	第1回生徒国際交流事業派遣（オーストラリア）
	8月	児童交流学習事業派遣（京北町）（終了）
	8月	学校評議員設置（南幌小学校・みどり野小学校・南幌中学校）
平成16年	1月	第2回生徒国際交流事業派遣（オーストラリア）
平成17年	1月	第3回生徒国際交流事業派遣（オーストラリア）（終了）
平成19年	3月	町立南幌幼稚園閉園
	4月	学校評議員設置（夕張太小学校）
		南幌町社会教育中期推進計画策定
	7月	南幌町特別支援教育推進協議会設立
平成20年	4月	南幌町青少年健全育成協議会設置
		南幌町放課後子どもプラン運営委員会設立
	5月	学校関係者評価委員会設置（全校）
平成22年	2月	南幌中学校体育館耐震改修工事
	7月	児童交流学習事業（多良木町）
平成24年	4月	南幌小学校・夕張太小学校・みどり野小学校が統合し、みどり野小学校校舎に新設南幌小学校開校
	8月	スクールバス1台増設
平成25年	1月	スクールバス1台更新
平成25年	2月	フッ化物洗口の実施（南幌小学校、南幌中学校）
	4月	高校生通学費補助事業
平成26年	8月	中学生国際留学プログラム事業（カナダ）
	9月	農村環境改善センター耐震改修工事
平成27年	2月	南幌町いじめ防止基本方針制定
	3月	南幌町公民館廃止
		町民テニスコート廃止
		スクールバス1台廃止
	4月	南幌町生涯学習センター「ぼろろ」開設（旧南幌小学校）
	5月	第1回南幌町総合教育会議開催
		南幌町いじめ問題専門委員会設置
	6月	南幌町いじめ問題対策連絡協議会設置
	7月	南幌町通学路交通安全プログラム策定
	9月	旧夕張太小学校譲渡
		南幌町教育大綱策定
	11月	南幌小学校耐震等改修工事
	12月	南幌中学校耐震等改修工事
平成28年	3月	南幌町営プール廃止（元町）
	4月	南幌高等学校支援事業
		学校給食における食物アレルギー対応指針策定
	5月	南幌町町民プール開設
平成29年	1月	スクールバス1台更新
	4月	南幌町生涯学習推進基本構想策定
		南幌町子どもの読書活動推進計画策定

	10月	新教育委員会制度に基づく新教育長就任
平成30年	3月	学校関係者評価委員会廃止（全校）
	3月	学校評議員廃止（全校）
	4月	コミュニティ・スクール制度導入
		南幌町学校運営協議会設置
		私立南幌みどり野幼稚園が認定こども園に移行
	5月	公設学習塾「なんぼろ塾」開設
	12月	学校における働き方改革南幌町アクション・プラン制定
平成31年	3月	南幌町立中学校部活動の在り方に関する方針策定
令和元年	8月	中学生国際留学プログラム事業 （オーストラリアに派遣先変更）
令和2年	3月	南幌町営プール廃止（夕張太）
	9月	南幌町立小・中学校ICT環境整備計画制定
令和3年	3月	南幌町教育施設長寿命化計画策定
令和3年	10月	南幌町小中一貫教育検討委員会設置
令和4年	3月	南幌町地域学校協働本部設置
令和5年	3月	北海道南幌高等学校閉校
	12月	スポーツセンター改修工事
令和6年	2月	南幌中学校体育館改修工事
	3月	南幌町小中一貫教育基本方針策定
令和7年	4月	小中一貫教育導入
		スポーツセンター・農村環境改善センター指定管理者制度導入
令和7年	11月	農村環境改善センター照明設備改修工事
令和8年	3月	南幌小学校改修（電気設備）工事

7. 学校教育

(1) 学校教育の概要

I. 児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向け、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の観点による教育を目指すことが重要であり、学校・家庭・地域・行政が連携・協力しながら課題意識を共有し、一体となった教育活動の充実を図るべく教育課程の編成と実施に努める。

II. 推進の重点

(1) 教職員研修体制の充実

◎推進事項

- 校長会、教頭会活動の振興
 - ・学校経営のための研修の充実
 - ・全道及び管内との連携
- 教員研修体制の改善充実
 - ・校内研修内容の充実と自主研修の確立
 - ・町教育研究協議会活動の充実
 - ・各種研究会及び講座への参加
 - ・各研修施設の効果的活用
 - ・定期的、継続的な公開研究会の実施

(2) 教育環境の整備充実

◎推進事項

- 教材備品の充実
 - ・教材教具、教材機器の計画的整備
 - ・児童用、生徒用図書の実充
- 「総合的な学習の時間」充実への交付金
 - ・小学校3～6年生及び中学校全学年
- 学校環境の整備
 - ・各学校設備の老朽化に伴う改修
- 助成等の充実
 - ・高等学校等通学費補助事業
- 町単独による少人数学級の導入

(3) 学校の保健衛生安全対策の充実

◎推進事項

- 学校保健の充実
 - ・学校検診の実施
 - ・フッ化物洗口の実施
 - ・学校給食における食物アレルギー対応指針の運用
- 学校安全対策の充実
 - ・義務教育児童生徒の日本スポーツ振興センター共済掛金の町費負担
- 交通安全教育、危険防止等の指導体制の強化
 - ・児童生徒及び教職員への交通安全指導の徹底
 - ・「危機管理マニュアル」の運用
 - ・「南幌町通学路交通安全プログラム」の運用

(4) 教育活動の充実

◎推進事項

- 特色ある教育活動のための教育課程の編成
- 特別支援教育の振興
 - ・南幌小学校ことばの教室への支援
 - ・特別支援学級の社会見学等への支援
- クラブ活動・課外体育の促進
 - ・部活動の促進（全道・全国大会出場費助成）
 - ・教科体育並びに課外体育の振興
- スクールカウンセラーの活用
- コミュニティ・スクール制度導入及び南幌町学校運営協議会の設置
 - ・地域とともにある学校づくりを目指し、学校運営協議会を設置し、小・中学校にコミュニティ・スクールを導入
- 南幌町いじめ防止基本方針の運用
- 南幌町いじめ問題専門委員会の設置
- 南幌町いじめ問題対策連絡協議会の設置
- 多良木町との児童交流学习事業の実施
- 中学生国際留学プログラム事業の実施

(5) 教育課程の実施

- ・生きる力の育成を中心課題とし、学習指導の改善・充実
- ・あらゆる場面で人間性を養う「特別な教科道徳」の充実
- ・各教科等の授業時数の確保と基礎・基本の指導並びに個に応じた学習指導の充実
- ・総合的な学習の時間の適切な実施を図る
- ・国旗、国歌の適切な指導

(6) 外国語指導助手（ALT）の任用

- ・国際理解教育や英語教育の充実を図るため、平成12年度より外国語指導助手を招致し、中学生への英語指導を実施
- ・小学5・6年生への外国語授業
- ・中学生国際留学プログラム事業参加生徒への英語レッスンの実施
- ・町民を対象とした英会話教室など幅広い活動を実施




(2) 町立学校一覧

(令和8年5月1日現在)

学校名	南幌町立南幌小学校	教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ■なかよく助け合う子ども ■自分で考え、学びを深める子ども ■元気に活動し、やりぬく子ども
設置年度	平成24年度		
所 在	南幌町美園2丁目6番1号		
電 話	011-378-3131		
FAX番号	011-378-3232		
校長氏名	曾根 秀彰		
教頭氏名	今野 信彦		
児童数	427名		
学級数	23学級(内特別支援学級9)		
教職員数	40名		
校 舎 面 積			
鉄筋コンクリート	6,231㎡		
屋 内 運 動 場 面 積			
鉄筋コンクリート	207㎡		
鉄 骨	1,124㎡		
校地面積	28,598㎡		



学校名	南幌町立南幌中学校	教育目標	『豊かな感性と知性を身につけ、理想の道をたくましく歩む生徒の育成をめざす』
設置年度	昭和44年度		
所 在	南幌町栄町3丁目3番2号		
電 話	011-378-2429		
FAX番号	011-378-3067		
校長氏名	小林 広		
教頭氏名	畠山 泰之		
生徒数	155名		
学級数	10学級(内特別支援学級4)		
教職員数	21名		
校 舎 面 積			
鉄筋コンクリート	4,041㎡		
屋 内 運 動 場 面 積			
鉄筋コンクリート	25㎡		
鉄 骨	974㎡		
校地面積	36,393㎡		



(3) 児童生徒数・学級数

【南幌小学校】

(令和8年5月1日現在)

		学 年 別							計
		1	2	3	4	5	6	特別支援 学 級	
児童 数	男	40	38	34	30	27	27	28	224
	女	44	36	32	26	30	24	11	203
	計	84	74	66	56	57	51	39	427
学級数		3	3	2	2	2	2	9	23

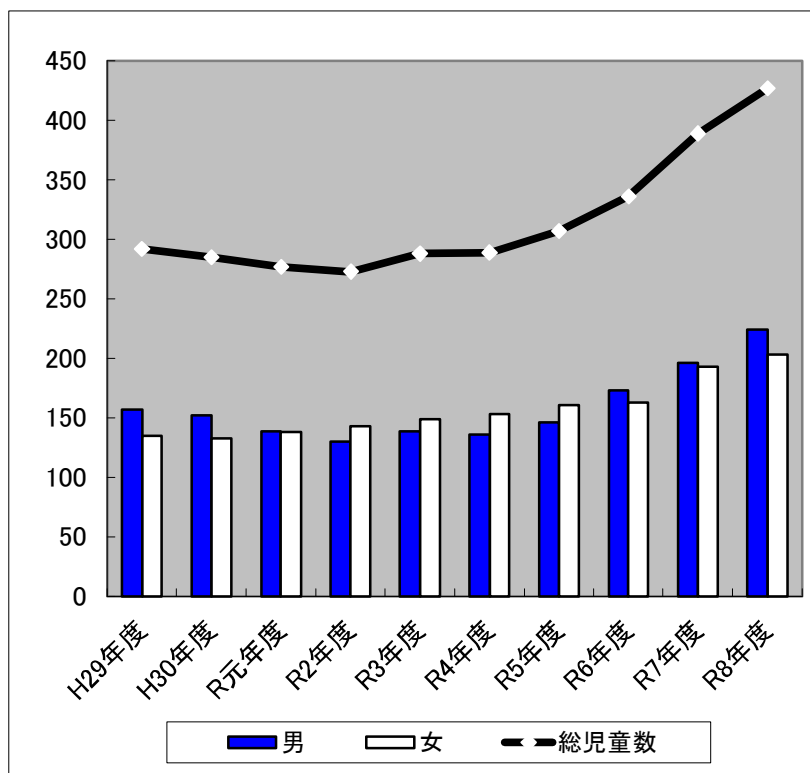
【南幌中学校】

		学 年 別				計
		1	2	3	特別支援 学 級	
生徒 数	男	23	18	21	8	70
	女	28	22	33	2	85
	計	51	40	54	10	155
学級数		2	2	2	4	10

(4) 小中学校児童・生徒数の推移状況

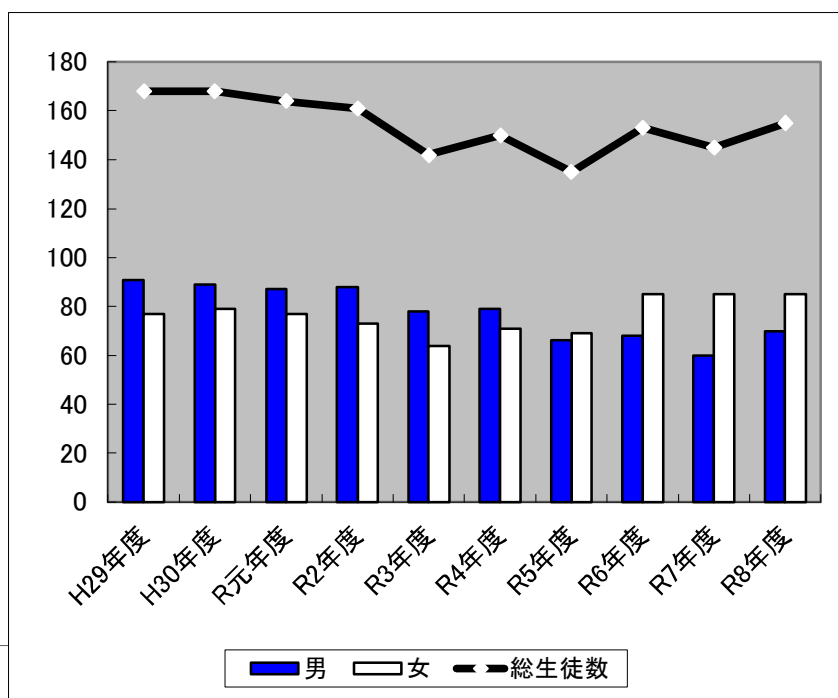
【 南幌小学校 】

年 度	人		総児童数
	男	女	
H29年度	157	135	292
H30年度	152	133	285
R元年度	139	138	277
R2年度	130	143	273
R3年度	139	149	288
R4年度	136	153	289
R5年度	146	161	307
R6年度	173	163	336
R7年度	196	193	389
R8年度	224	203	427



【 南幌中学校 】

年 度	人		総生徒数
	男	女	
H29年度	91	77	168
H30年度	89	79	168
R元年度	87	77	164
R2年度	88	73	161
R3年度	78	64	142
R4年度	79	71	150
R5年度	66	69	135
R6年度	68	85	153
R7年度	60	85	145
R8年度	70	85	155



(5) 教 職 員 名 簿

【 南幌小学校 】

(令和8年5月1日現在)

	職 名	氏 名	在籍年数	担 任 等	校 務 分 掌
1	校 長	曾 根 秀 彰	2		学校経営全般
2	教 頭	今 野 信 彦	3		学校運営全般
3	教 諭	阪 本 建 一	1	1年1組	体育
4	教 諭	猪 又 陽 子	5	1年2組	教育課程
5	教 諭	永 田 誠	1	1年3組	教育課程
6	教 諭	千 葉 祥 子	6	2年1組	学習行事
7	教 諭	的 場 孝 仁	1	2年2組	校内研修
8	教 諭	丹 尾 春 彦	3	2年3組	校外生活
9	教 諭	長 澤 千 夏	1	3年1組	校内生活
10	教 諭	稲 場 亮 太	1	3年2組	校内研修
11	教 諭	佐 藤 剛	4	4年1組	教育課程
12	教 諭	飯 田 美代子	2	4年2組	学習行事
13	教 諭	堀 崇 嗣	2	5年1組	校内生活
14	教 諭	岡 和 輝	1	5年2組	児童会
15	教 諭	西 亦 敬 宏	6	6年1組	教育課程
16	教 諭	多 谷 ゆう子	2	6年2組	児童会
17	教 諭	東 香 代	2	知的	支援業務
18	教 諭	田 口 明 子	1	知的	校内生活
19	教 諭	杉 山 由 貴	3	知的副担	校外生活
20	教 諭	天 瀬 悦 子	4	情 緒	学習評価
21	教 諭	佐 藤 総 子	2	情 緒	地域連携
22	教 諭	森 浦 佳 康	1	情 緒	支援業務
23	教 諭	瀬 尾 梨 紗	3	言 語	文化・図書
24	教 諭	蛇 池 明 子	4	難 聴	体育
25	教 諭	伏 見 昌 代	4	弱 視	文化・図書
26	教 諭	宮 岡 雅 歌	1	病弱・虚弱	学習事務
27	教 諭	小 西 千和子	1	特別支援副担任	視聴覚
28	教 諭	池 田 裕 樹	1	特別支援副担任	視聴覚
29	教 諭	五十嵐 正 規	6	3～6年体育	視聴覚
30	教 諭	熊 野 秀 也	3	3～6年理科	学習事務
31	教 諭	岡 本 美雅子	6	外国語・外国語活動 2年・4年音楽	地域連携
32	教 諭	大 山 朋 子	3	1～3年、 5・6年図工	学習事務
33	教 諭	渡 邊 龍 哉	4	通 級	学習評価
34	教 諭	浅 田 雅 代	5	通 級	支援事務
35	教 諭	櫻 岡 真 記	4	通 級	清掃・給食
36	教 諭	木 内 しおり	4	通 級	文化・図書
37	養護教諭	工 藤 由 香	1	養護教諭	保健
38	栄養教諭	村 上 華奈子	3	栄養教諭	清掃・給食
39	事務主幹	野 中 陽 子	5	事務主幹	事務管理
40	教 諭	伯 谷 瑞 歩	2		産前産後休暇・育児休業中
41	公務補	三 浦 義 春	5	公務補	環境保全
42	事務補	金 丸 京 子	21	事務補	庶務
43	支援員	柏 木 真奈美	19	特別支援教育学習支援員	
44	支援員	山 内 美由紀	6	特別支援教育学習支援員	
45	支援員	吉 田 清 美	8	特別支援教育学習支援員	
46	支援員	平 賀 実喜子	4	特別支援教育学習支援員	
47	支援員	飯 塚 美 佳	2	特別支援教育学習支援員	
48	支援員	藤 田 真 一	1	特別支援教育学習支援員	
49	介助員	長 見 穂奈美	3	特別支援教育介助員	

【 南幌中学校 】

(令和8年5月1日現在)

	職 名	氏 名	在籍年数	担 任 等	教科担任	校務分掌	部活動
1	校 長	小 林 広	1			学校運営全般	
2	教 頭	畠 山 泰 之	2			学校運営全般	
3	教 諭	沼 辺 敬	1	1 A担任	1, 3年保健体育	教育計画	サッカー
4	教 諭	成 田 和 麻	5	1 B担任	1年社会	生徒会2	野球
5	主幹教諭	越前谷 和 史	8	1年副担任	全学年数学		サッカー
6	教 諭	小野島 直 彦	4	情緒学級担任 (ひまわり)		校外生徒指導特支Co	柔道
7	教 諭	渡 邊 愛	2	知的学級担任 (あすなろ)		研修	吹奏楽
8	教 諭	筒 渕 遥 圭	1	特別支援学級副担任	1年英語	清掃・給食	バドミントン
9	教 諭	篠 原 正 信	3	2 A担任	2年理科	校内生徒指導	男子バスケ
10	教 諭	安 藤 友 美	2	2 B担任	全学年音楽・家庭	道徳・特活	吹奏楽
11	教 諭	住 谷 祐 佳	5	2年副担任	2, 3年英語	生徒会1	バドミントン
12	教 諭	佐 藤 壮 太	1	肢体不自由学級担任 (さくら)	2年保健体育	体育	野球
13	教 諭	尾 崎 克 己	2	通級		教育事務2	男子バスケ
14	教 諭	川 端 春 代	1	通級		学習・図書	美術
15	教 諭	工 藤 泉 美	2	3 A担任	2, 3年社会	生徒理解	女子バスケ
16	教 諭	森 田 大 介	7	3 B担任	1, 3年国語	時間割	バドミントン
17	教 諭	秋 葉 俊 範	3	3年副担任	1, 3年理科	進路	バレーボール
18	教 諭	富 樫 雅 美	5	病弱学級担任 (すみれ)	2年国語	教育事務1	サッカー
19	教 諭	宮 古 将 寛	1	情緒学級担任 (ひまわり)		総合	柔道
20	教 諭	佐 藤 祈	2	3年所属・巡回	全学年美術・技術		美術
21	養護教諭	長 濱 桃 花	1	3年所属		保健	女子バスケ
22	事務職員	長 嶋 夏 海	1			事務部	
23	A L T	マイケル・ギラード	1				
24	学習支援員	松 村 広 恵	11				
25	学習支援員	渡 辺 佳奈子	4				
26	S・C	渡 辺 千 鶴	2			カウンセラー	
27	公務補	高 橋 敏 美	7				
28	事務補	岩 野 薫	20				

(6) 学校給食

① 学校給食の歴史

明治22年、山形県鶴岡町の私立忠愛小学校で、貧困家庭の子弟救済と就学奨励の立場から実施されたのが学校給食の始まりで、その後、昭和29年に学校給食法が制定され、全国的に普及しました。

南幌町でも過去にユニセフの脱脂ミルクの配布や、南幌町酪農業協同組合が製造した牛乳の給食を行ってきましたが、昭和41年11月給食センター開設で完全給食となりました。



② 学校給食の役割

身体の発育期にある児童生徒にバランスのとれた栄養のある食事を提供することにより児童生徒の健康の増進、体位の向上を図ることを目的としています。

また、教育の場である学校で食事を一緒にとれるようにすることで学校生活を豊かにするとともに、より良い食習慣を身につけさせ、好ましい人間関係を育成することも目的としています。

③ 学校給食の充実と町負担

『農業がもつ「食」のすばらしさを伝える』という、本町食育推進計画の基本理念の下、地元農産物（米、小麦粉、キャベツ、玉ねぎ、ピーマン、長ネギ等）の活用を通じて、地域の食文化や主要農産物に対する理解を深める食育の推進に努めています。

令和8年度から子育て世帯の経済的負担を軽減するため、小・中学校の学校給食費を公費負担により無償化を実施しています。

- ・ 1食あたりの給食費（令和8年度）

小学校 370円

中学校 447円

④ 施設の概要

- ・ 施設名 南幌町立学校給食センター
- ・ 住所 南幌町南14線西11番地
- ・ 建物 構造 鉄筋コンクリート平屋
面積 696 m²
建築年度 平成5年4月（建替え）
工事費 496,339千円

⑤ 給食実施状況

年 度	日 給食日数	食 給食食数	給食供給 対象人数 (4月1日現 在)	給食費 月額/円		1食あたり単価	
				小学校	中学校	小学校	中学校
平成28年度	204	100,540	530	4,120	4,900	254	302
平成29年度	208	101,114	522	4,120	4,900	254	302
平成30年度	205	99,767	514	4,120	4,900	254	302
令和元年度	187	88,523	504	4,120	4,900	254	302
令和2年度	202	93,946	502	3,850	4,550	231	273
令和3年度	207	93,992	499	3,850	4,550	231	273
令和4年度	204	94,617	505	3,850	4,550	231	273
令和5年度	205	97,119	500	3,850	4,550	231	273
令和6年度	204	107,733	547	3,850	4,550	231	273
令和7年度	199	112,268	602	2,660	3,200	321	385
令和8年度			651	給食無償化		370	447

※令和2年度～令和6年度まで主食費用を公費負担、令和7年度は給食費の1/2を公費負担



(7) 保育園・幼稚園・高等学校・養護学校一覧

(令和8年5月1日現在)

【私立保育園】

保育所名	南幌いちい保育園						
所 在	南幌町中央2丁目2番2号						
電 話	011-378-2734						
F A X 番 号	011-378-2304						
園 長 名	松 木 千 秋						
定 員	90 名						
職 員 数	常勤16名、非常勤23名						
園 児 数							
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
全 体	9	16	18	19	18	20	100
うち町内 在 住	9	16	18	19	18	20	100



【私立幼稚園】

幼稚園名	認定こども園南幌みどり野幼稚園						
所 在	南幌町南14線西7番地						
電 話	011-378-0070						
F A X 番 号	011-378-0070						
園 長 名	佐 藤 亜 紀 子						
定 員	225 名						
職 員 数	40 名						
園 児 数							
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
全 体	1	15	30	44	67	68	225
うち町内 在 住	1	15	30	39	56	54	195



【道立特別支援学校】

学 校 名	北海道南幌養護学校			
所 在	南幌町緑町5丁目1番1号			
電 話	011-378-2313			
F A X 番 号	011-378-2319			
校 長 名	坂 本 清			
職 員 数	115 名			
児 童 生 徒 数				
	小学部	中学部	高等部	計
全体	63	41	57	161
うち町内 在 住	7	2	1	10



(8) 学校教育関係委員・団体名簿

南幌町学校運営協議会委員

【目的】 「みんなで育てよう南幌の子どもたち」をスローガンに、学校の自己評価の結果や学校と家庭や地域が連携した望ましい支援の在り方など、保護者や地域の意見を学校運営に反映させながら課題解決を目指す。

【南幌町学校運営協議会規則第8条第1項】 協議会の委員は15人以内とし、次に掲げる者のうちから、教育委員会が任命する。

- (1) 保護者 (2) 地域住民 (3) 対象学校の運営に資する活動を行う者
(4) 前各号に掲げる者のほか、教育委員会が適当と認める者

関係法令等	地方教育行政の組織及び運営に関する法律 南幌町学校運営協議会規則	設置 年月日	平成30年 4月1日
所管課	生涯学習課学校教育係	定数	15名以内
任期	令和8年4月1日～令和10年3月31日		
役職名	氏 名	選出区分	在職期間
会 長	山 口 達 矢	対象学校の運営に資する活動を行う者	5
副 会 長	辻 松 淳 二	対象学校の運営に資する活動を行う者	5
委 員	山 田 昌 子	地域住民	1
	林 孝 子	地域住民	3
	尾 暮 美 幸	地域住民	3
	久 保 むつ子	地域住民	3
	増 田 和 樹	対象学校の運営に資する活動を行う者	3
	岡 玲 子	対象学校の運営に資する活動を行う者	5
	永 森 淳 也	対象学校の運営に資する活動を行う者	3
	米 田 昌 樹	対象学校の運営に資する活動を行う者	9
	大 西 良 子	対象学校の運営に資する活動を行う者	3
	寺 崎 嘉 那	保護者	3
	加 藤 園 子	保護者	3
	三 浦 彩 佳	保護者	1
柴 田 沙奈恵	保護者	1	

南幌町いじめ問題専門委員会委員

【南幌町いじめ問題専門委員会条例第2条】 専門委員会は、南幌町教育委員会の諮問に応じ、次に掲げる事務を行う。

- (1) いじめの防止等のための対策に関する調査研究等
- (2) 法第28条第1項に規定する重大事態に係る事実関係の調査

関係法令等	いじめ防止対策推進法 南幌町いじめ問題専門委員会条例	設置 年月日	平成27年 5月20日
所管課	生涯学習課学校教育係	定数	4名以内
任期	令和7年4月1日～令和9年3月31日		
役職名	氏名	職業・選出区分等	在職期間
委員	石垣 則 昭	学識経験者	2
委員	渡辺 千 鶴	心理、福祉の専門家(スクールカウンセラー)	2
委員	上西 卓 也	学校退職者／学識経験者	4
	堀井 雄 三	弁護士	2

南幌町学校給食運営委員会委員

【南幌町立学校給食センター管理規則第4条第2項】 運営委員会は、次の基本的事項を審議する。

- (1) 学校給食の運営に関し、教育委員会の諮問に応じ建議する事項
- (2) 学校給食費に関する事項 (3) 学校給食の献立及び給食物資に関する事項
- (4) 学校給食の衛生、安全に関する事項 (5) 前各号に掲げるもののほか、必要な事項

関係法令等	南幌町立学校給食施設設置条例 南幌町立学校給食センター管理規則	設置 年月日	平成24年 7月19日
所管課	学校給食センター	定数	10名以内
任期	令和8年4月1日～令和9年3月31日		
役職名	氏名	職業・選出区分等	
委員長	曾根 秀 彰	南幌小学校 校長	
副委員長	小林 広	南幌中学校 校長	
委員	櫻岡 真 記	南幌小学校給食担当教諭	
	渡邊 礼 子	南幌小学校保護者	
	西澤 賢 治		
	筒淵 遥 圭	南幌中学校給食担当教諭	
	伊藤 絵 莉	南幌中学校保護者	
	平尾 和 昭		
	ヒンクルマン由美	学校薬剤師	

南幌町教育研究協議会

【目的】 この会は、南幌町の幼児・児童・生徒に対する教育の進展充実をめざし、教職員個々の深まりと全町的教育研究の推進及びその実践の交流を図ることを目的とする。

関係法令等	南幌町教育研究協議会会則	設置 年月日	昭和56年 7月1日
所管課	生涯学習課学校教育係		
任期	令和8年4月1日～令和9年3月31日		
役 職	氏 名	学校名等	
会 長	小 林 広	南幌中学校	
副 会 長	五十嵐 正規	南幌小学校	
事 務 局 長	越前谷 和史	南幌中学校	
会 計	富 樫 雅美	南幌中学校	
研究推進委員長	堀 崇 嗣	南幌小学校	
研究推進委員	小 川 航	南幌養護学校	
	岡 本 美雅子	南幌小学校	
	渡 邊 愛	南幌中学校	
監 査 委 員	曾 根 秀 彰	町内校長会	
	渡 部 浩 二	教育委員会	
	伏 見 昌 代	旧事務局	

(9) 学校教育関係団体

団体名	南幌町いじめ問題対策連絡協議会
所在地等	〒069-0237 栄町3丁目3番1号 生涯学習センター「ぽろろ」内 生涯学習課学校教育係 TEL：011-378-6620 FAX：011-378-6630
目的	いじめの防止等に関する機関及び団体が、いじめ防止対策において連携が図れるよう、それぞれの取組についての情報交換等を行い、いじめ根絶のための組織的な取組を進める。
組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・南幌町立南幌小学校 ・南幌町立南幌中学校 ・南幌町人権擁護委員会 ・札幌方面栗山警察署南幌駐在所 ・南幌小学校PTA ・南幌中学校PTA ・子ども会育成連絡協議会 ・スポーツ少年団本部 ・南幌町民生委員児童委員協議会 ・教育委員会 ・南幌町関係部局（保健福祉課等）
事業内容	連絡協議会の開催 (年1回開催)

団体名	南幌町食物アレルギー対応連絡会議
所在地等	〒069-0237 栄町3丁目3番1号 生涯学習センター「ぽろろ」内 生涯学習課学校教育係 TEL：011-378-6620 FAX：011-378-6630
目的	食物アレルギー疾患を有する児童生徒が学校生活を安心して過ごすことを目的に、関係機関が学校給食等の食物アレルギー対応における連携体制を構築するため設置する。
組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・南幌町立南幌小学校 ・南幌町立南幌中学校 ・町立南幌病院 ・南空知消防組合南幌支署 ・教育委員会
事業内容	連絡会議の開催 (年1回定例開催、必要に応じ随時開催)

8. 社会教育

(1) 第4期南幌町社会教育中期推進計画(令和4年度～8年度)

基本理念

一人ひとりの
『やってみたい・知りたい・学びたい』をつなげよう
みんなで楽しくつくる なんぼろの社会教育

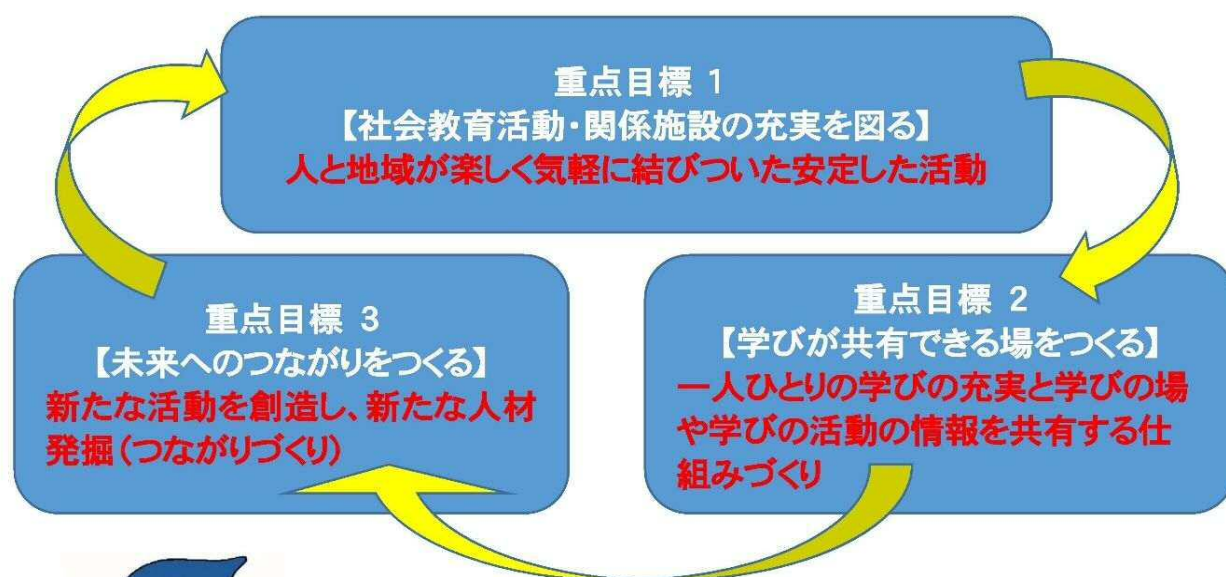
計画策定の趣旨

第4期南幌町社会教育中期推進計画は、今後、全国的に社会問題となっている人口減少や少子化、新型コロナウイルス感染症対策として「新しい生活様式」を取り入れたライフスタイルの変容、SDGsの教育の取組など、個人の価値観の多様性と急速に進展する情報化社会により、社会教育の進め方も大きく変わることが予想されます。また、生活をより豊かにし、幸福感を得るためには、一人ひとりの学びの場を充実させるとともに、少人数であっても居心地のいい学びの場と人と人との結びつきが強い仲間が必要であると考えます。音楽やスポーツ、趣味、ボランティアなどの小集団での学び合いが、少しずつ仲間を増やし、その仲間の輪に気軽に参加できる環境をつくり出すことのできる社会教育推進の基本として策定しました。

3つの重点目標と循環する社会教育モデル

重点目標は、「キーワード」「方向性」「視点」「推進項目」の基本となる目標であり、基本理念の達成に向けた指標と位置づけています。重点目標が円滑に循環する「社会教育モデル」となることを目指します。

《循環する社会教育モデル》



キーワードと方向性

「方向性」「視点」は「基本理念・重点目標」と「推進項目・推進事業」をつなぐもので、それぞれの推進項目が、目標に沿って進んでいるかを確認する役割も果たしています。

Key
Word

1 家庭教育

キャッチ
フレーズ

子育ての課題を共有し、
みんなで悩み、学び支え合おう

【方向性】 子育ての課題を共有し、地域全体で子どもを育てるための新しいアイデアを発想し支えることができる環境を目指します。

Key
Word

2 学校教育と社会教育の融合

キャッチ
フレーズ

時代を担う子どもたちが育つ、新しい学校づくりに向けて、地域と学校が一緒に考えよう!

【方向性】 学校教育と社会教育の要素を部分的に重ね合わせながら、一体となって子どもたちの教育に取り組んでいくことで、子どもたちの学ぶ意欲を向上させ、子ども自らが学ぶ環境や町民と子どもたちが相互に学力や生きる力の向上を目指します。

Key
Word

3 発想の転換

キャッチ
フレーズ

事業やサークル活動をきっかけに、一人ひとりの生きがいと世代を問わない仲間を創ろう!

【方向性】 事業の面白さや興味が持てるような内容を参加者が、感想や意見を発信し、共有することで、新たな事業が生まれ、多様性に富んだ社会教育の充実を目指します。

Key
Word

4 体験・経験の充実

キャッチ
フレーズ

余計なこと、無駄なこと、無意味とを感じる活動も学びにつなげ、まちづくりに生かそう!

【方向性】 少人数の集まりや仲間をつくることで、より深く学ぶことができ、民間が実施している事業とも連携し、幅広い活動に発展させ、多様化したニーズに応じた学びを提供することを目指します。

Key
Word

5 つながり

キャッチ
フレーズ

いつでも、どこでも、だれとでも。
お互いの情報を共有しよう!

【方向性】 互いの活動が情報発信され、情報交換が活発になることで、個人や組織を問わず新たな活動のつながりをつくれます。個人や組織を問わず、様々な活動の情報を共有し、発信することで新たなつながりの仕組みをつくれます。

Key
Word

6 担い手づくり

キャッチ
フレーズ

形式にこだわらず、楽しく一緒に学び合うことで、新たな担い手をつくろう!

【方向性】 町民のあらゆる活動の情報を共有することで、学校や地域の求めに応じた知恵や経験、技術を持った社会教育の担い手を発掘・育成することができ、世代交代にとらわれない、長く続く社会教育活動を目指します。

推進項目と推進事業

推進項目は、社会教育が進めている施策の根幹となるもので、施策をより明確にし、「基本理念」「重点目標」「方向性」「視点」への評価に繋げるために位置づけます。

- 推進項目 家庭教育の支援 【推進事業】 ・子育て支援 ・家庭教育支援
- 推進項目 青少年健全育成の推進 【推進事業】 ・青少年健全育成
- 推進項目 社会教育活動の推進 【推進事業】 ・成人教育推進 ・地域活動活性化
- 推進項目 スポーツ・レクリエーション活動の推進
【推進事業】 ・スポーツコミュニティー推進 ・健康づくり/体力向上推進 ・子ども体力向上推進
- 推進項目 芸術・文化活動の推進 【推進事業】 ・芸術文化推進
- 推進項目 読書活動の推進 【推進事業】 ・読書活動推進 ・子どもの読書活動推進
- 推進項目 ふるさとの記憶の保全 【推進事業】 ・ふるさとの記憶保全
- 推進項目 生涯学習の推進 【推進事業】 ・生涯学習推進
- 推進項目 社会教育関係施設の充実 【推進事業】 ・社会教育関係施設充実

第4期 南幌町社会教育中期推進計画体系

基本理念	重点目標	キーワードとキャッチフレーズ	方向性	推進項目	主な推進事業
一人ひとりの「やってみたくい・知りたい・学びたい」を「つながりよう」	1 社会教育活動・関係施設の充実を図る	(1) 家庭教育 子育ての課題を共有し、みんなでお悩み、学び支え合おう！ (2) 学校教育と社会教育の融合 時代を担う子どもたちが育つ、新しい学校づくりに向けて、地域と学校が一緒に考えよう！ (3) 発想の転換 事業やサークル活動をきっかけに、一人ひとりの生きがいと世代を問わない仲間を創ろう！ (4) 体験・経験の充実 余計なこと、無駄なこと、無意味と感じる活動も学びにつなげ、まわすことに生かそう！ (5) つながり いつでも、どこでも、だれとでも。お互いの情報を共有しよう！ (6) 担い手づくり 形式にこだわらず、楽しく一緒に学び合うことで、新たな担い手をつくろう！	子育ての課題を共有し、地域全体で子どもを育てるための新しいアイデアを発想し支えることができる環境を目指します。 学校教育と社会教育の要素を部分的に重ね合わせながら、一体となって子どもたちの教育に取り組んでいくことで、子どもたちが学ぶ意欲や市民と子どもたちが相互に学力や生き残る力の上を目指します。 事業の面白さや興味を持てるような内容を参加者が、感想や意見を発信し、共有することで、新たな事業が生まれ、多様性に富んだ社会教育の充実を目指します。 少人数の集まりや仲間をつくることで、より深く学ぶことができ、民間が実施している事業とも連携し、幅広い活動に発展させ、多様化したニーズに応じた学びを提供することを目指します。 互いの活動が情報発信され、情報交換が活発になることで、個人や組織を問わず新たな活動のつながりをつくりまわす。個人や組織を問わず、様々な活動の情報を共有し、発信することで新たなつながりをつくりまわす。	① 家庭教育の支援 ② 青少年健全育成の推進 ③ 社会教育活動の推進 ④ スポーツ・レクリエーション活動の推進 ⑤ 芸術・文化活動の推進 ⑥ ふるさとの記憶の保全 ⑦ 読書活動の推進 ⑧ 生涯学習の推進 ⑨ 社会教育関係施設の充実	○子育て支援事業 ○家庭教育支援事業 ○青少年健全育成事業 ○成人教育推進事業 ○地域活動活性化事業 ○スポーツコミュニケーション推進事業 ○健康づくり・体力向上事業 ○子ども体力向上事業 ○芸術文化推進事業 ○ふるさとの記憶保全事業 ○読書活動推進事業 ○子ども読書活動推進事業 ○生涯学習推進事業 ○生涯学習推進基本構想の推進 ○生涯学習推進本部による庁内連携事業の推進 ○社会教育活動の情報発信方法の検討 ○生涯学習センターの充実 ○スポーツセンター・市民プールの充実 ○社会教育関係施設の充実

(2) 石川神楽

石川神楽の発祥について

平成13年度宮城県伊具郡丸森町教育委員会社会教育主事鈴木悦朗氏を訪ね石川神楽について説明を受けた。

石川神楽は、石川邦光公の家来であった水野太平氏が神楽の舞を指導していたことから宮城県角田村（現宮城県角田市）の君萱神楽きみがやかくらと思われる。

神楽のルーツ

出雲流岩戸神楽が分類され紀州熊野大社 — 柴田町入間田八雲神社 — 角田市

毛萱神楽けがやくら — 角田市君萱神楽（角田市八幡神社） — 南幌石川神楽（南幌八幡神社、現在は南幌神社）

神楽の舞順序（12の舞）

- | | | | |
|----------|---------|---------|---------|
| 1. 四方堅舞 | 2. 幣舞 | 3. 鋤舞 | 4. 八幡舞 |
| 5. 片剣舞 | 6. 末廣舞 | 7. 恵美子舞 | 8. 春日舞 |
| 9. 明神御子舞 | 10. 種蒔舞 | 11. 参剣舞 | 12. 獅子舞 |

【お面】

お面は桐で作られていて、宮城県角田村から持ってきたものと、仙台市で買って送られたものがある。

作成された時期は特定できないが江戸時代末期か明治初期と思われる。

現在、生涯学習センターぼろろの郷土資料室で收藏されており、当時からのもので手を加えたところがなく100年以上そのままの形で保存されている。



【 鬼退治の面 】



【 春日面（種蒔面） 】

(3)南幌町史跡・標柱位置図

南幌町 史跡・標柱位置図

史跡名	住所
1 幌向村戸長役場跡	元町3丁目1-7
2 幌向村公会堂跡	元町3丁目1-7
3 幌向駅通所跡	元町3丁目3-19
4 幌向郵便局跡	元町3丁目
5 幌向運河第3開門跡	南13線西9番地
6 競馬場跡	南12線西9番地
7 大正園	元町3丁目2-1
8 幌向村立南幌尋常高等小学校跡	元町3丁目
9 新夕張川切り換え地点	南16線西0番地
10 五十鈴神社参道入り口跡	南12線西4番地
11 幌向村立育生尋常小学校跡	南12線西5番地
12 幌向村立青葉尋常小学校跡	南16線西6番地
13 石川邦光屋敷跡	南17線西3番地
14 丸金渡船場跡	南17線西5番地
15 八幡神社跡	南16線西6番地
16 大野神社跡	南15線西11番地
17 幌向村立鶴城尋常小学校跡	南17線西12番地
18 藤田渡船場跡	南20線西12番地
19 幌向村立晚翠尋常小学校跡	南11線西15番地
20 白鳥沼跡	南13線西17番地
21 白鳥神社跡	南12線西22番地
22 夕張太渡船場跡	南12線西22番地
23 山田武七入植地	南13線西22番地
24 幌向村立夕張太尋常小学校跡	南13線西22番地
25 鶴沼跡	南18線西17番地
26 夕張太尋常小学校校地	南14線西20番地
27 夕張鉄道南幌向駅跡	中央2丁目4-1
28 夕張鉄道晩翠駅跡	南11線西14番地
29 開拓初期の墓地跡	南15線西6番地
30 小林渡し跡	南19線西10番地
31 伊勢開墾跡	南12線西6番地
32 東幌小学校跡	南14線西5番地
33 晩翠小学校跡	南12線西15番地
34 夕張太神社跡	南13線西22番地
35 本町基盤目状測量家水野太平屋敷跡	南17線西4番地
36 木詰の地跡	南20線西16番地



(4) 社会教育関係施設

《生涯学習センター「ぼろろ」》

【所在地】 南幌町栄町3丁目3番1号

【電話番号】 011-378-6620

【FAX】 011-378-6630

【施設】

建設年度 昭和48年度（旧南幌小学校として建設）

改修年度 平成26年度（生涯学習センターへ改修）

構造 鉄筋コンクリート造3階建

敷地面積 31,679.21㎡

延床面積 4,846.45㎡

改修費 474,000千円

【主要施設】

1階 展示ロビー、図書室、多目的ホール

2階 郷土資料室、交流室、ミーティングルーム

3階 調理実習室、会議室、研修室、木工室、視聴覚室、教室

その他 野球場

【開館時間】 午前9時～午後9時

【休館日】 毎週月曜日（多目的ホール毎月第1月曜日）・年末年始

【利用状況】 令和5年度 26,985人

令和6年度 27,891人

令和7年度 27,703人

※図書室及び郷土資料室の利用人数含む



《生涯学習センター「ぼろろ」図書室》

【面積】 470.4㎡

【主要施設】

児童図書室1（絵本、実用書）

児童図書室2（読み物）

一般図書室1（図書）

一般図書室2（雑誌、新聞、AVコーナー）

レファレンスルーム（レファレンス資料、大型本）

【蔵書数】 図書59,923冊、雑誌18誌、AV資料210点

【開館時間】 午前10時～午後5時

（毎週火・金曜日は午後8時まで）

【休館日】 毎週月曜日・年末年始

【利用状況】 令和5年度 12,883人

令和6年度 13,153人

令和7年度 13,759人



《生涯学習センター「ぼろろ」郷土資料室》

【面積】 512.00㎡

【保存資料数】 1,176点

- | | |
|----------------|--------------|
| ①衣食住：265点 | ⑦民族知識：68点 |
| ②生産生業：160点 | ⑧民族芸能・娯楽：62点 |
| ③交通・運輸・通信：234点 | ⑨人の一生：7点 |
| ④交易：9点 | ⑩記録：211点 |
| ⑤社会生活：118点 | ⑪その他：36点 |
| ⑥信仰：6点 | |

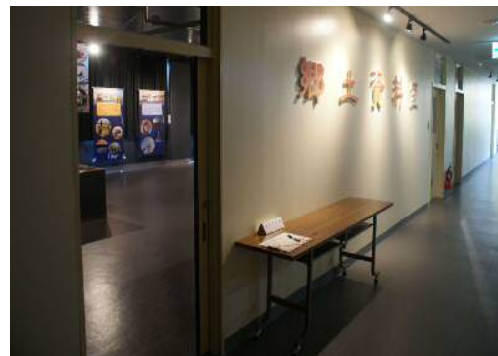
【開館時間】 午前10時～午後5時

【休館日】 毎週月曜日・年末年始

【利用状況】 令和5年度 208人

令和6年度 267人

令和7年度 383人



《農村環境改善センター》 ※令和7年度より株式会社オカモトにて指定管理

【所在地】 南幌町中央2丁目3番2号

【電話番号】 011-378-2001

【施設】

建設年度 昭和57年度

改修年度 平成26年度（耐震改修）

構造 鉄骨造 2階建

面積 1,984.13㎡

建設費 647,950千円

【主要施設】

1階 多目的ホール、農村青年・婦人室、研修室

2階 研修室、和室

【利用状況】 令和5年度 26,211人

令和6年度 20,131人

令和7年度 23,737人



《三重レークハウス》 ※平成20年度より三重湖公園管理組合にて指定管理

【所在地】 南幌町南13線西3番地

【電話番号】 011-378-1270

【施設】

建設年度 昭和57年度

構造 鉄骨造 2階建

面積 402㎡

建設費 64,200千円

【主要施設】

厨房・休憩室・研修室（3部屋）

【利用期間】 通年

【休館日】 月曜日 年末年始

【利用状況】 令和5年度 8,173人

令和6年度 9,852人

令和7年度 7,555人



(5) 社会体育施設

《スポーツセンター》 ※令和7年度より株式会社オカモトにて指定管理

【所在地】 南幌町中央2丁目4番1号

【電話番号】 011-378-3190

【施設】

建設年度 平成4年度
構造 鉄筋コンクリート造3階健
面積 3,658㎡
建設費 1,427,206千円

【主要施設】

アリーナ、格技場、トレーニング室、ランニングコース、
こども広場、相談室、シャワー室、放送室

【利用状況】 令和5年度 30,472人
令和6年度 60,111人
令和7年度 75,778人



《町民プール》 ※令和7年度より株式会社オカモトにて指定管理

【所在地】 南幌町中央2丁目4番1号

(スポーツセンター併設)

【電話番号】 011-378-6301

【施設】

建設年度 平成27年度
構造 木造平屋建(木質2方向ラーメン構造)
延床面積 978.78㎡
建設費 661,096千円

【主要施設】

一般用 25m×4コース 水深1m～1.20m
幼児用 2箇所 水深0.5m、0.7m
歩行用 水深1m

【利用状況】 令和5年度 7,793人
令和6年度 7,500人
令和7年度 6,150人



《町営野球場》 ※平成24年度より南幌町建設業協会（TEL378-3955）にて指定管理

【所在地】 南幌町元町2丁目7番

【施設】

建設年度 昭和53年度

面積 24,029㎡

建設費 380,000千円

【設備】 放送設備、バックネット、得点板

【利用状況】 令和5年度 1,045人

令和6年度 1,761人

令和7年度 1,218人



(6) 社会教育関係委員名簿

南幌町社会教育審議会委員

【目的】 教育基本法に規定する社会教育の振興を図るために設置。社会教育に関し教育委員会に助言するため、以下の職務を行う。

- (1) 社会教育に関する諸計画を立案すること
- (2) 定時又は臨時に会議を開き、教育委員会の諮問に応じ、これに対して、意見を述べる
こと
- (3) 前2号の職務を行うために必要な調査研究を行うこと
- (4) 教育委員会の会議に出席して社会教育に関し意見を述べること
- (5) 教育委員から委嘱を受けた青少年教育に関する特定の事項について、社会教育関係団体、社会教育指導者その他関係者に対し、助言と指導を与えること
- (6) 社会教育関係団体に対する補助金交付について意見を述べること

関係法令等	社会教育法 南幌町社会教育審議会設置条例 南幌町社会教育審議会設置条例施行規則		設置 年月日	平成14年 4月1日
所管課	生涯学習課社会教育係		定数	20名以内
任期	令和8年4月1日～令和10年3月31日			
委員長	川上裕一	副委員長	小野島直彦	
			松島摩美	
区分	氏名	職業・選出区分等		在職期間
社会教育 部 会	松島摩美	生涯学習サポーター		12
	岩井恒信	子ども会育成連絡協議会		8
	竹山未紗	生涯学習サポーター		4
	木津順治	町内会長		新
	曾根秀彰	南幌小学校長／校長会代表		新
社会体育 部 会	小野島直彦	スポーツ少年団指導員		15
	岩田昌也	スポーツ少年団指導員		8
	瀬川佐緒里	生涯学習サポーター		4
文化部会	川上裕一	音楽団体		16
	永岡真佐子	読み聞かせサークル		10
	阿部真弓	民謡サークル		8
	鈴木弘和	南幌太鼓拓心会		8

南幌町地域学校協働本部

【目的】 南幌町において、より多くのより幅広い層の地域住民、団体等が参画し、緩やかなネットワークを形成することにより、地域と学校が連携・協働した地域学校協働活動を推進することを目的とする。活動内容は以下のとおり。

- (1) 学校支援活動 (2) 家庭教育支援活動 (3) 地域活動
 (4) 放課後子供教室 (5) 地域未来塾
 (6) その他、第1条の目的を達成するために必要な事業

関係法令等	南幌町地域学校協働本部設置要綱		設置 年月日	令和4年 4月1日
所管課	生涯学習課社会教育係		定数	—
任 期	令和8年4月1日～令和10年3月31日			
役 職	氏 名	職業・選出区分等	在職期間	
地域学校 協働活動 推進員	松 島 摩 美	社会教育審議会委員	4	
	岩 井 恒 信	社会教育審議会委員	4	
	竹 山 未 紗	社会教育審議会委員	4	
	木 津 順 治	社会教育審議会委員	新	
	曾 根 秀 彰	社会教育審議会委員	新	
	小野島 直 彦	社会教育審議会委員	4	
	岩 田 昌 也	社会教育審議会委員	4	
	瀬 川 佐 緒 里	社会教育審議会委員	4	
	川 上 裕 一	社会教育審議会委員	4	
	永 岡 真 佐 子	社会教育審議会委員	4	
	阿 部 真 弓	社会教育審議会委員	4	
地域連携 協働担当 職員	鈴 木 弘 和	社会教育審議会委員	4	
	今 野 信 彦	南幌小学校教頭	R6.4～	
事務局	嶋 山 泰 之	南幌中学校教頭	R7.4～	
	渡 部 浩 二	生涯学習課長		
	梶 田 健 太 郎	生涯学習課 学校教育担当 課長補佐		
	佐 藤 将	地域コーディネーター 生涯学習課 社会教育担当 課長補佐		

南幌町スポーツ推進委員

【目的】 スポーツ基本法の規定に基づき、スポーツの振興のため、住民に対し、スポーツの実技の指導 その他スポーツに関する助言を行うために配置。職務については次のとおりである。

- (1) 住民の求めに応じてスポーツの実技の指導を行うこと
- (2) 住民のスポーツ活動の促進のための組織の育成を図ること
- (3) 教育機関やその他の行政機関の行うスポーツの行事又は事業に関し協力すること
- (4) スポーツ団体その他の団体の行うスポーツに関する行事又は事業に関し求めに応じ協力すること
- (5) 住民一般に対し、スポーツについての理解を深めること
- (6) 前各号に掲げるもののほか、住民のスポーツの振興のための指導助言を行うこと

関係法令等	スポーツ基本法 南幌町スポーツ推進委員に関する設置規則		設置 年月日	昭和54年 4月1日
所管課	生涯学習課社会教育係		定数	10名以内
任期	令和7年4月1日～令和9年3月31日			
委員長	中 村 収 一		副委員長	白 倉 崇 史
	氏 名	職業・所属団体等		在職期間
	中 村 収 一	柔道連盟		23
	松 原 有 希 子	ソフトバレーボール連盟		17
	白 倉 崇 史	スキー連盟		13
	米 田 千 紗	バレーボール協会		11
	高 橋 清 絵	バドミントン協会		9
	増 田 和 樹			6
	村 上 史 純	ミニバスケットボール少年団		4
	菊 池 七 海	ソフトボール連盟		1

(7) 社会教育関係団体

団体名	南幌町子ども会育成連絡協議会
所在地等	〒069-0237 栄町3丁目3番1号 生涯学習センター「ぼろろ」内 TEL：011-378-6620 FAX：011-378-6630
目的	南幌町における地域子ども会育成会を総括し、各地区子ども会育成会相互の連絡調整を図り、子ども会の発展向上と青少年の健全育成を目指す。
組織体制 代表者	<p>会長 岩井 恒信（学識経験者）</p> <p>副会長 辻本 秀美（西町）※育成部長を兼ねる 白倉 崇史（三重）※文化・体育部長を兼ねる</p> <p>事務局長 佐々木 秀美（北町）</p> <p>理事 2名 監事 2名</p> <p>事務局 4名 加盟団体 7団体</p>
事業内容	<p>1. 育成事業</p> <p>(1) リーダー養成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーダー研修開講式 ・三重湖キャンプ ・子ども秋キャンプ ・ボランティアフェスタ協力 ・公共交通機関利用研修 ・南空知4町合同青少年リーダー研修会 ・冬の活動&閉講式 <p>(2) 夏休み自然体験学習 2026in ニセコ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月4日～8月7日 ニセコ町周辺 <p>2. 体育・文化事業</p> <p>(1) 体育事業 11月中旬</p> <p>3. 関係会議</p>

団体名	南幌町青年団体協議会
所在地等	会長宅 〒069-0216 南幌町南16線西21番地
目的	社会生活において、青年に必要な教養を自ら高めるため、研修及び会員相互の輪を広げ明るい人間関係をつくと共に社会参加をすすめ、もって地域社会の発展に寄与することを目的とする。
組織体制 代表者	会長 平尾 和昭 副会長 本間 達也 会 計 1名 監 査 2名 会員数 15名
事業内容	1. 交通安全運動 2. クリスマスイルミネーション 3. 冬季イベント 4. 町外研修 5. 協力事業 (1) 成人式

団体名	南幌町父母と先生の会（P T A）連合会	
所在地等	〒069-0237 美園2丁目6番1号 南幌小学校内 TEL：011-378-3131 FAX：011-378-3232	
目的	南幌町における各学校の父母と先生の会が連絡調整のもとに全町的な教育の諸問題の解決にあたり、教育の振興を図る。	
組織体制 代表者	会長 城地 真吾（南幌中学校P T A会長） 副会長 米田 昌樹（南幌小学校P T A会長） 伊藤 絵莉（南幌中学校P T A副会長） 小林 広（南幌中学校校長） 事務局長 畠山 泰之（南幌中学校教頭） 理事 4名 監事 1名 会員数 521人（南幌小学校 357人 南幌中学校 164人）	
単位 P T A	南幌小学校	南幌中学校
	会長 米田 昌樹	城地 真吾
	副会長 渡辺 礼子	伊藤 絵莉
		平尾 和昭
	事務局長 今野 信彦	畠山 泰之
	教職員数 39人	22人
	保護者数 318人	142人
事業内容	1. P T A連合会研究大会兼南幌町青少年健全育成を考える集い ・10月3日 ぽろろ 2. 主催研究大会への参加 (1) P T A広報活動講習会 ・未定 (2) 全道P T A研究大会 ・未定 (3) 南空知P T A連合会子育て研修会 ・未定 (4) 南空知P T A連合会研究大会 ・未定 3. 各種団体等主催研修会への参加 (1) 空知管内地域教育フォーラム	

(8) 社会体育関係団体

団体名	南幌町スポーツ協会
所在地等	〒069-0292 栄町3丁目2番1号 役場内 TEL：011-378-2121 FAX：011-378-2131 <事務局長 南幌町役場内>
目的	町内各種体育団体の連絡協調を図り、併せてスポーツの振興に努力することによって、お互いの人格技量を高め、親和協力の精神を培い、明るく健康な南幌町の建設に寄与することを目的とする。
組織体制 代表者	会長 本間 秀正（バレーボール協会） 副会長 中村 収一（柔道連盟） 理事長 湯本 要（パークゴルフ協会） 副理事長 藤本 裕光（軟式野球連盟） 事務局長 富木 孝郎 理事16名 監事2名 加盟団体数8団体 会員数674名
事業内容	1. 各加盟団体への助成・育成 (1) スポーツ行事及び講習会等への後援 (2) 表彰の実施 (3) 各加盟団体への活動助成及び主催事業の後援 2. 生涯スポーツの振興 (1) 各種指導者研修会等への派遣 3. 組織力の強化 (1) 北海道スポーツ協会、空知管内スポーツ協会との連携 (2) 広報活動の実施（「体協だより」の発行・体育の日）

【スポーツ協会加盟団体】

団体名	代表者名	事務局長
剣道連盟	白 倉 千 春	石 川 卓 也
軟式野球連盟	藤 本 裕 光	三 浦 裕 一
柔道連盟	小 原 直 哉	宍 戸 秀 幸
バレーボール協会	本 間 秀 正	斉 藤 夏 未
スキー連盟	竹 山 憲 貴	竹 山 新 太 郎
南幌バウンドテニス協会	新 内 啓 子	家 入 美 智 男
ソフトバレーボール連盟	坂 口 正 幸	竹 居 田 太 一 郎
パークゴルフ協会	側 瀬 敏 彦	湯 本 要

団体名	南幌町スポーツ少年団本部
所在地等	〒069-0237 栄町3丁目3番1号 生涯学習センター「ぼろろ」内 TEL：011-378-6620 FAX：011-378-6630
目的	単位スポーツ少年団に共通する目的達成のため、団体の連絡調整を密にし、その活性化を図ることを目的とする。
組織体制 代表者	本部長 小野島直彦（柔道クラブ） 副本部長 富木 孝郎（バドミントン少年団） 神埜 卓哉（空手少年団） 事務局長 岩本 聖（野球スポーツ少年団） 理事5名 監査2名 加盟団体数 7団体（団員数171名・指導員30名）
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 単位スポーツ少年団育成 <ol style="list-style-type: none"> (1) 各単位スポーツ少年団への助成 (2) スポーツ少年団認定員養成講習会への派遣 (3) スポーツ少年団ジュニアリーダースクールへの派遣 (4) 北海道スポーツ少年大会への派遣 2. スポーツ少年団交流活動 <ol style="list-style-type: none"> (1) 空知管内各種交流大会への派遣 3. 少年スポーツ行事 <ol style="list-style-type: none"> (1) スポーツ少年団フェスティバル 4. 各種研修・会議等 <ol style="list-style-type: none"> (1) 指導者講習会 (2) 運動適正テスト会 (3) リーダー研修会 (4) スポーツワンフェスタなんぼろ 5. その他本会の目的達成に必要な事項 6. 関係会議 <ol style="list-style-type: none"> (1) 空知管内スポーツ少年団連絡協議会

【スポーツ少年団本部加盟団体】

団 体 名	代 表 指 導 者
柔道クラブ	小野島 直 彦
野球スポーツ少年団	岩 本 聖
サッカースポーツ少年団	五十嵐 正 規
バドミントン少年団	富 木 孝 郎
バレーボール少年団	近 江 孝 衛
空手少年団	神 埜 卓 哉
ミニバスケットボール少年団	佐 藤 将

(9) 芸術・文化関係団体

団体名	南幌町文化協会
所在地等	〒069-0237 栄町3丁目3番1号 生涯学習センター「ぼろろ」内 TEL：011-378-6620 FAX：011-378-6630
目的	南幌町における芸術・文化活動に取り組む各団体、サークル相互の連携を図り、本町の芸術・文化の振興と豊かな生活文化の創造を目指す。
組織体制 代表者	会長 尾西 貞二（夕声会・カラオケ） 副会長 永原 隆夫（水墨画サークル） 事務局長 菱田 北龍（北龍書道会） 監事 2名 加盟団体数 9団体 会員数 86人
事業内容	1. 町民総合文化展 ・農村環境改善センター 2. 芸能発表会 ・農村環境改善センター 3. 芸術鑑賞会 ・農村環境改善センター 4. 郷土芸能の普及 5. 空文連との連携

【文化協会加盟団体】

部門	団体名	代表者	会員数
文化	北龍書道会	菱田 北龍	33
	南幌水墨画サークル	永原 隆夫	6
芸能	ブルーソング研究会	川村 剛英	6
	南幌太鼓拓心会	鈴木 弘和	1
	ビッグバンド ぼうふうりん	藤田 義光	10
	夕声会	尾西 貞二	4
	民謡翼声会	阿部 真弓	4
	西川流 鯉優会	田中 玲子	8
	南幌町フォークダンス同好会	谷口 弘	14

【文化財保護団体】

団体名	南幌町郷土史研究会
所在地等	〒069-0237 栄町3丁目3番1号 《生涯学習センター「ぽろろ」内》 TEL : 011-378-6620 FAX : 011-378-6630
目的	南幌町における郷土史の調査、研究及び文化財保護に向けた活動
組織体制 代表者	会 長 藤田 義光 監 事 松本 敏幸 会員数 2 人

(10) 社会教育関係施設利用サークル

【生涯学習センター「ぽろろ」】

サークル名	代 表 者	利 用 日
南幌でもそば打たん会	玉 寄 鷲 男	毎月第2水曜日、第4土曜日
ビッグバンド ぼうふうりん	藤 田 義 光	毎週日曜日
コールポピー	岩 本 志 保	毎月第2・4金曜日
一期一絵の会	清 水 るい子	毎月2回火曜日
きらら織りサークル	高 田 栄 子	毎月2回
南幌水墨画サークル	大 西 良 子	毎月第3火曜日
バレーボール少年団	竹居田 太一郎	毎月3回
野球少年団	岩 本 聖	火・木・金・土・日曜日・祝
トミーズ	近 藤 智 貴	毎週水曜日
G I L A S E G	工 藤 智 広	火・金

【農村環境改善センター】

サークル名	代 表 者	利 用 日
南幌町囲碁同好会	菊 地 清 志	毎週土曜日
お針子サークル	渡 辺 君 江	毎週火曜日(12月～3月)
クラシックバレエ ポアントクラ ブ	本 間 香菜恵	毎月3回金曜日
ストリートダンスサークル Merry Clown	谷中田 美 貴	毎週金・土曜日
民謡翼声会	阿 部 真 弓	毎週木曜日
Studio140	小 磯 友 里	毎週金曜日
お花の会	新 井 ヨシ子	不定期
フォークダンス同好会	谷 口 弘	毎月1回水曜日
ヨガサークル	小 柳 敬 子	毎週火曜日
ヨガサークル	谷 藤 朋 代	毎週水曜日
こうせつ書道	本 間 香菜恵	毎月3回水曜日
ヨガ教室	山 本 沙奈絵	不定期
ピラティス教室	山 本 沙奈絵	不定期
二葉塾	菅 原 崇	毎週木曜日
ダンス	鈴 木 若 菜	毎週火曜日
オカリナ・ラルゴ	平 柳 す み	毎月2回水曜日

【スポーツセンター】

団 体 名	代 表 者	利 用 日
空手少年団	辻 本 芳 江	毎週火・木曜日
卓球同好会	藤 田 勝	毎週木曜日
ビギナーズ	梅 津 真 弓	毎週木曜日
レディースシャトル	高 橋 藤 子	毎週木曜日
バレーボール少年団	近 江 孝 衛	毎週火・木・金曜日
ソフトバレーボール連盟	竹居田 太一郎	毎週水曜日
テニス同好会	清 水 良 三	毎週金曜日
バドミントン少年団	富 木 孝 郎	毎週水・木曜日
柔道クラブ	小野島 直 彦	毎週火・水・木・金曜日
Love all	菅 原 憲 章	毎週火曜日
ミニバスケットボール少年団	佐 藤 将	毎週火曜日 (南幌小学校体育館使用不可の期間)
フラップ	竹居田 温 子	第二・第四金曜日
窪田ジャパン	窪 田 祥 平	毎週火曜日
南幌中学校男子バスケットボール部	篠 原 正 信	大会・強化練習使用
南幌中学校女子バスケットボール部	篠 原 正 信	大会・強化練習使用
南幌中学校バドミントン部	森 田 大 介	なし

【学校開放】

〔南幌中学校体育館〕

団 体 名	代 表 者	利 用 日
VERTEX	小 林 哲 春	毎週水・金・土曜日

〔南幌小学校体育館〕

団 体 名	代 表 者	利 用 日
ミニバスケットボール少年団	佐 藤 将	毎週月・水・金曜日
サッカー少年団	五十嵐 正 規	毎週火・木曜日
フラップ	竹居田 温 子	毎週金曜日

南幌町の教育

令和8年7月1日 発行

編集・発行 **南幌町教育委員会**

〒069-0237

空知郡南幌町栄町3丁目3番1号

生涯学習センター「ぼろろ」

TEL011-378-6620

メール:学校教育係 gakkoukyouiku@town.nanporo.hokkaido.jp

社会教育係 syakaikyouiku@town.nanporo.hokkaido.jp

ホームページ <http://www.town.nanporo.hokkaido.jp>